

青葉バリアフリーサポート21

10年のあゆみ



ABS21

表紙の作品「シラネ葵」

寝たままの状態です。右手の親指だけで、特殊なマウスを操作し、花の絵を描くCG画家、日高和俊さんの作品です。

現在、筋ジストロフィーのため鹿児島県の国立南九州病院に入院中です。

一日に約2時間の制作が限度で、1枚を完成させるのに約1ヵ月かかるそうです。

あおばバリアフリーサロン「仲間の作品集」をご覧ください。

<http://www.abs21.com/salon/hidaka/shiraneaoi.htm>

はじめに

「青葉バリアフリーサポート21 (ABS21)」は、みなさまに支えていただき、おかげさまで10周年を迎えることができました。関わりのあったすべての方々に対し、ここに謹んで感謝の意を表します。

1999年秋、横浜市青葉区社会福祉協議会および横浜市社会福祉協議会のご協力で、「ITを活用した障害者の生活情報センター機能と会員相互のたすけあいシステムをバーチャル空間に設ける」ことを目的に設立準備をはじめ、2000年1月に運営会議としてのメーリングリストを3名で立ち上げたのですが、現在の会員数は67名です。

共生のまちづくりの概念を具現化する方策が、はじめからあったわけではなく、一期一会のサポートのできる街づくりを目指して「グローバルに考え、ローカルに活動する」ことをモットーに試行錯誤してまいりました。最近、「共生」の実践活動を裏打ちする理念が、10年以上も前から「新社会哲学」として、学問的に体系化され、さらに進展した「グローカル公共哲学」が提唱されていることを知りました *1。時を経て、理念と実践が、ひとつに結びつきました。自分とは異なる他者と「和して同ぜず」のコミュニティを築く過程で生じたさまざまな問題を学びの材料として、リフレクション(振り返り)しながら、対話を重ねて解決しつつ今日まで歩んでまいりました。その中で、お互いを人間として尊重し認め合う「ケアの精神」が、人間の生き方として最も重要だということを確認することができました *2。

「あなたと私」だけの閉じた世界から、公共世界に関係を広げ、ケアしあいながら「住みたい場所で、暮したい仲間と共にいきっていく」、そんな未来に開いた「こころのバリアフリー」を広める街づくりの活動を通して、一人ひとりの社会参加により生き甲斐や自己実現をめざしていこうという理想を掲げた地域密着型のささやかで地道な10年間の活動の記録が、みなさまのお役に立てば幸いです。

2010年3月吉日

青葉バリアフリーサポート21 (ABS21) 代表 三竹 眞知子

*1. 山脇直司『新社会哲学宣言』創文社、1999年。山脇直司『グローカル公共哲学』東京大学出版会、2008年。

*2. 今田高俊『自己組織性と社会』東京大学出版会、2005年、p.248。

目次

1. はじめに	0 1
2. 目次	0 2
3. A B S 2 1 について	0 3
4. 1 0 周年に寄せて	0 4
5. ホームページ制作	0 5
6. インターネットサロン	0 6
7. バリアフリーマップ	0 7
8. 講演会・公開講座	0 8
9. ふれあい活動	0 9
1 0. ネットワーク	1 0
1 1. アンケート結果	1 1
1 2. 年表	1 2
1 3. ひとことメッセージ	1 3
1 4. おわりに	1 4
1 5. 編集後記	1 5

<活動目的>

地域に住むひとたちが生活の質(QOL)向上のために、障害の有無や障害の枠を超えた情報交換と交流、すなわち、バリアフリーコミュニケーションの場の提供と社会参加の促進による共生の街づくりをめざして、心のバリアフリーを促進するさまざまな活動を展開しています。青葉区社会福祉協議会当事者研修会主催コミュニケーションセミナーでの参加者のニーズを形にしたもので、外出や発話が困難な人が、パソコンおよびインターネットを活用して主体的に参加しています。

<設立経緯>

青葉区は、港の見える横浜市中心部からみると、北部の「僻地」にあります。パソコン・ボランティアは桜木町(横浜市社会福祉協議会)、新横浜(横浜ラポール＝障害者スポーツ文化センター)、上大岡(ウィリング横浜)などで活動していましたが、外出が困難な障害者が通うには、乗り換えが多く不便でした。

当時、横浜市は、バリアフリーマップ作成に取り組んでいましたが、関内や桜木町周辺などの観光地を対象としていました。住んでいる地域情報が欲しいという障害者の声を踏まえて、当会は地域の街の情報を発信する活動を展開することになりました。

- | | |
|------------|---|
| 1999年9月 | 共生のコンセプトを掲げ、横浜市青葉区社会福祉協議会主催自立支援セミナー受講生の身体障害の方と、地域での支え合い活動をする自立生活支援の拠点を作りたいと社協に提案し、横浜市青葉区社会福祉協議会および横浜市社会福祉協議会と協議することになりました。 |
| 1999年11月 | 自立生活支援センターを運営している東京都大田区にある「大田IKJ」を、青葉区社協職員と脳性まひの方2名と家族1名の5名で見学しました。同じ頃、ピアボランティアセンター構想をまとめた企画書(案)を青葉区社協に提出しました。 |
| 1999年12月 | インターネット上のピアボランティアセンター構想に変更し、社協に企画書(改訂版)を提出し、地元のIT企業とHP開設についての折衝を開始しました。 |
| 2000年1月3日 | 「青葉バリアフリーサポート21運営会議メーリングリスト」を3名で開設し産声をあげました。バリアフリーに関する、立場を問わない人間相互のコミュニケーションの場、さらには人間関係の創造の場を目指し、MLを運営会議として、障害のある人たちと共に立ち上げました。 |
| 2000年1月19日 | 第一回運営会議(対面)を9名で開催しました。 |
| 2000年6月24日 | 15名で新体制を確認した上で会則を制定し、今日に至っており、2009年12月末現在、会員数67名です。 |

<基本方針>

ABS21は、OF(障害のある人が主体)でもFOR(障害のある人のために、健常者といわれる人が主体)でもなく、TOGETHER-WITH(共に)の関係で進めていきます。障害の有無に拘わらず、人間同士お互いの関係はあくまでも水平で対等な、パートナーです。

(「ABS21について」<http://www.abs21.com/group/abs21/index.htm>参照)

<運営体制>

青葉バリアフリーサポート21運営体制(2004年1月1日策定)

1. 運営委員について

- 運営委員は、運営委員会を構成し、会全体の運営や事業の方向性などについて検討し、事業を執行します。
- 運営委員は、運営委員会で選任されます。
- 運営委員になりたい方は、代表に申し出ます。

(注)運営委員会の開催実績:2000年度13回、2001年度9回、2002年度7回、2003年度9回、2004年度8回、2005年度10回、2006年度6回、2007年度7回、2008年度5回、2009年度8回(予定)

2. 活動グループ

現在、次の三つのグループがあり、リーダーを中心に複数のスタッフにより常時活動を続けています。

- HPグループ
- PCグループ
- マップ制作グループ

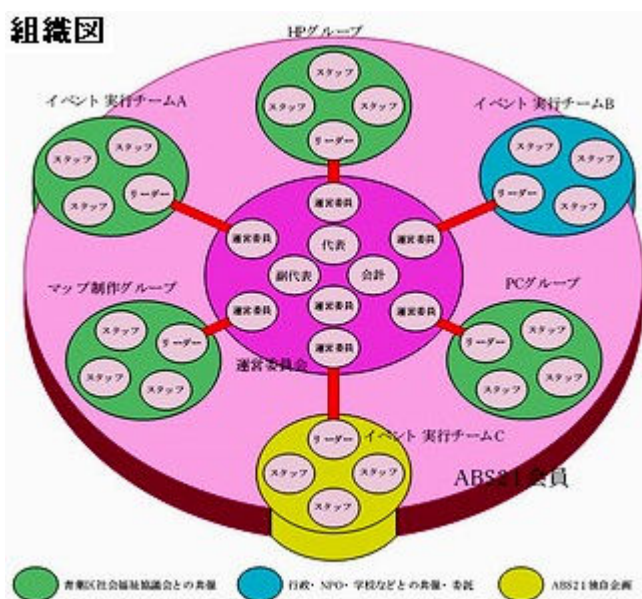
これらの活動グループは青葉区社会福祉協議会との共催で事業を進めています。

(注)2009年12月末現在、講演会グループ、ふれあいの会グループが追加されています。

3. イベント(プロジェクト) 実行チーム

1. 運営委員会において承認された企画ごとのイベント(プロジェクト)実行チームを構成するにあたり、イベント(プロジェクト)実行チームリーダーは、運営委員の中から選任されます。
2. 実行チームリーダーがスタッフ募集をします。
3. スタッフには、イベント(プロジェクト)の企画・推進をするスタッフと当日のみの実働スタッフがいます。状況に応じて、会員外のテンポラリースタッフを依頼することができます。リーダー以外の運営委員は企画・推進をするスタッフとして参加することがあります。
4. リーダーは、予算書をもとに、支払い明細書を作成し、企画スタッフの承認を得た上で、会計に提出します。
5. イベント終了後、実行チームは、解散します。

これらのイベント(プロジェクト)はABS21独自で企画実施するだけでなく、青葉区社会福祉協議会との共催、あるいは行政・企業・NPO・学校などとの他組織との共催・委託で実施します。



10周年に寄せて・1

青葉バリアフリーサポート21が10周年を迎えられましたことに心からお祝いを申し上げます。また、長い間、地域福祉の充実にご尽力していただき、厚くお礼申し上げます。

三竹代表をはじめ会員の皆様には、青葉区が平成15年度から平成18年度まで行った「青葉台駅周辺福祉のまちづくり重点推進地区事業」において、地区協議会の委員をお引き受けいただくなど、バリアフリーのまちづくりにご尽力いただきました。

特に、福祉の目で見るとあるイベントには、会をあげてサポートしていただき、バリアフリー検証だけでなく、バリアフリーコンサートの企画などさまざまな活動にご協力いただきました。

また、榎が丘小学校でのふれあい交流会でも、視覚障害者理解のためのワークショップでご協力いただきました。

さらに、視覚障害者のサポートガイドカードの作成に当たっては、原案作りに当事者会員の方にご参加いただき、また、製作にも携わっていただきました。

その後も、青葉区社会福祉協議会などと連携されて、バリアフリー社会に向けた様々な活動を続けられていると伺っております。

青葉区では、現在、平成22年度からスタートする第2期地域福祉保健計画を策定していますが、第1期に引き続き、「区民・事業者・行政の協働による福祉保健のまちづくり」を理念とし、「誰もが担い手であり、受けてである地域社会をつくる」ことを目標とした計画案を取りまとめたところです。

今後とも、地域の福祉活動を担う多くの方々と一緒に地域福祉を進めてまいりたいと考えております。

これからも、誰もが安心して暮らせるバリアフリー社会を目指して、青葉バリアフリーサポート21が益々発展していくことを祈念してお祝いのごあいさつとさせていただきます。

このたびはABS21が設立10周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

横浜市青葉区役所 区長 細谷 延

10周年に寄せて・2

このたびはABS21が設立10周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

当初から障害の有無や障害の枠を超えた情報交換と交流、「心のバリアフリー化によるネットワークづくり」を掲げ、インターネットサロンの運営、ホームページやバリアフリーマップの制作、バリアフリー社会を促進するための講演会開催などを通じて、バリアフリーコミュニケーションの場の提供と社会参加の促進を図り、参加者そして地域の方々それぞれが実感できる様々な事業を先駆的に展開してきました。三竹代表をはじめ、メンバーのご努力に心から敬意を表したいと存じます。

今日の青葉区における情報ネットワークを支え、多大な貢献をしてこられたABS21の10年間の活動実績は、同じ目的を目指すものとして、とても頼もしく、大きな喜びを感じます。「ノーマライゼーションのまちづくり」を地道に一つ一つ実現しているのも、メンバーの高い技術力と熱い情熱、そして何より試行錯誤を繰り返しながら作りあげてきた相互の信頼感・協力体制によるものだと推察いたします。メンバー同士議論を重ね、着実に歩んできたその過程が、さらにより質の高い活動へとつながっているのだと思います。また、隔週土曜日に開催しているインターネットサロンでは、いつも大勢の方で賑わっていて、誰もが気軽に参加できる温かな関係を作りだし「教える、教えられる」という枠を越えた自然な関係をそこに見ることができます。一口に「障害」といっても多種多様で、その人自身であることに気づかされるのです。

どうぞこれからもその理念を大切にされながら、引き続き地域の方から信頼され、愛される活動を期待しています。私たちもABS 21の皆様に負けないよう頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。皆様方のますますのご発展を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会 事務局長 川崎 善博

ホームページ(HP)制作グループ



文責:三竹

このHPは、「あおばバリアフリーサロン」といい青葉区社協との共催事業で企画・運営・管理している公共空間の名称です。

活動日 : 随時

活動場所:

ふれあい青葉2階 団体交流室他

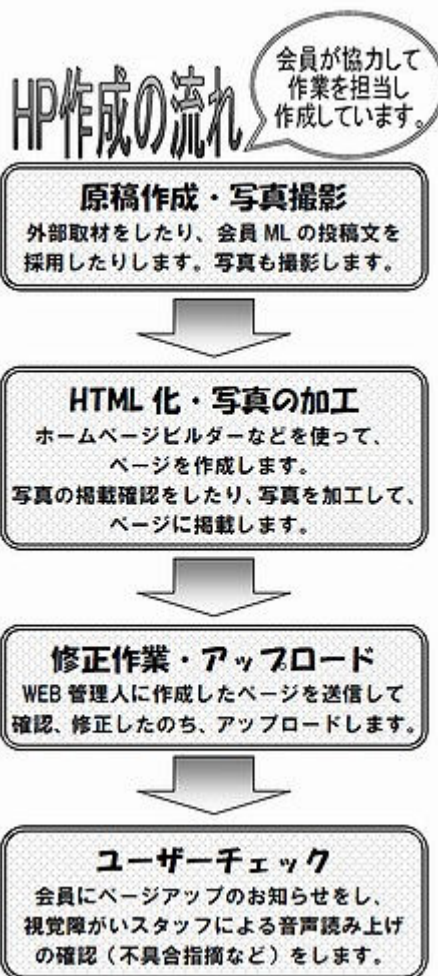


当初、このHPにABS21独自の活動内容も掲載していたので、組織の名称とみなされがちでした。そこで、社協共催事業としてのHPと団体のHPの二本立てにしました(2001年)。

このHPの企画・運営の大きな特徴は、リレー形式のチームワークでとりくむこと、そして、ユニバーサルデザインのHPづくりを目指し、視覚障害や肢体不自由の会員からユーザーとして生の意見を反映して、改善を図ることです。原稿作成、写真撮影、HTML化作業、ユーザビリティ・チェック、ウェブ管理のように作業を分担し、自分のできる仕事を請負います。

ABS21のホームページは、パソコン、インターネットに詳しい、詳しくないに関わらず、会員がお互いの知恵を出し合って制作しています。だから、ページひとつひとつが会員の作品なのです。

私は、ホームページは、ページのカタチが決まっています、イメージも均一なものに仕上げるのが当たり前だと思っていました。でもABS21のホームページを見て、ページごとに個性があふれているのを目の当たりにし、こういうホームページって素敵だなと思いました。今後も、会員同士で知恵を出し合い、スキルアップやホームページ制作をしていけるよう勉強会等を開催していきます。(2008年以降HPリーダー 田中美穂 記)



事務局機能も兼ねているので、2002年にスケジュール表を設置し、活動を公開しましたが、非会員が対面活動に飛び入り参加して、不都合が起きたため、2003年に、詳細の公開は中止しました。会員限定の掲示板「障害別情報交流室」は利用者がほとんどなく、2001年に閉鎖しました。自由登録制の掲示板「バリアフリー情報広場」は、迷惑投稿の消去に追われ、2005年、スタッフ登録制に変更しました。ふれあいMLと称した誰でも参加できる理想郷を絵に書いたようなMLは、活発すぎてアランになり、管理人が誹謗中傷される事態となり、2007年に「設置当初の目的は、達成した」として、閉鎖しました。

スタート時は、ボランティア活動ならではの無限の可能性を秘めた発想で、現実化してきたのですが、前述のように、対面活動を伴わない場合は、運用面で難しい面もありました。しかし、対面重視の会員間の情報共有やコミュニケーション活動では、視覚障害者や、ITにそれほど精通していない会員にも、一番容易く有効活用できるのはMLだということが明らかになり、主たるツールとなっています。また、紙媒体の削減を方針としていますので、HPを活動記録の共有の場として捉え、一旦掲載したコンテンツは、アーカイブとしてできるだけ保存しています

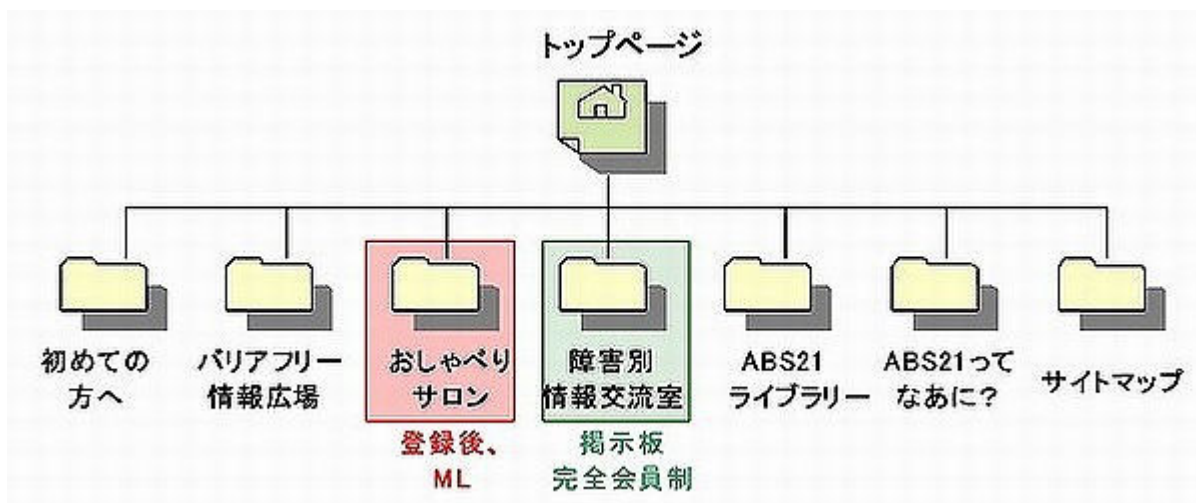
ABS21のHPを前管理人の王子さんから引き継いで数年、大きなトラブルもなく推移したことに感謝しています。新しいソフトの導入などは副管理人の王子さんに任せ、もっぱらファイル管理に徹しています。HPの目的は新しい情報の広報と言う一点に絞りABS21の行事かわるニュースを少しでも早く掲載するように努めています。2009年6月にレンタルサーバーの容量も無償で2GBにアップされました。現在の使用量は247MBです、まだまだ容量に余裕があります。みなさまの積極的な投稿をお待ちしています。HTML(HP用の言語)で書かれてなくても結構です。ワード、メール、デジカメ写真何でも結構、新しい情報の提供をお待ちしています。

(正管理人 矢野睦男 記)

2000年<スタッフ15名+助っ人大学生2名>

発足当時、「障害者のための地域情報を発信するHPを皆でつくりたい」という思いで、HP作成依頼を業者に見積もり依頼すると「コンテンツは？」と尋ねられました。「コンテンツの分量がわからないのに見積もりはだせない」というのです。ABS21では、作るプロセスを主たる活動内容としていたので、中身は何もなく、すべて、これから収集して発信する予定でした。コンテンツの入れ物としてのHPを作ってほしいと言うと、「制作の順序が違う。本末転倒だ」とまで言われて、気落ちしました。

2000年早春、慶応大学SFCの学生の参加を契機に、会員のニーズの聞き取りから、会員制の障害者用の掲示板や情報提供のための掲示板などの「枠組み」をつくり、6月から試行運用を開始し、その年の9月から公開することができました。当時は、平塚・茅ヶ崎・名古屋など遠方の方々が、尽力してくださいました。以下が最初の枠組みです。



2001年＜スタッフ21名＞

1. コンテンツをダイレクトにUPできる「耳より情報」を設置しました。自由登録制。
2. 「障害福祉のあんない2000」(抜粋)の修正作業をしました。記載事項の漏れの修正と各見出しの表現方法を統一しました。音声読み上げの際、表の内容が聞いてわかる読み方を研究し、この方法をソースに取り入れる作業に取り組みました。★視覚障害者のためのHP制作作業で、肢体不自由スタッフの視力が低下してしまったという伝説があります。
3. 「あおばバリアフリーサロン」と当会専用HPの二本立てに編成し直し、立ち上げ当初のHPは削除しました。
4. ファイル構成を整理し、階層を浅くし、第3階層までにしました。
5. パスワードを要する掲示板を廃止しました。
6. HP作成ソフトを採用し、オルト属性で対応しました。必要な場所だけ視覚障害者用に記述方法を分けました。ただし、フレームつきの画面構成は、音声認識する際、非常に複雑なので不採用としました。
7. 「おしゃべりML」の複数管理人運営体制を見直し、正副2名体制に移行しました。管理人は、独自の判断基準をもてるよう、役員と兼務しないことにしました。

2002年:＜スタッフ22名＞

1. トップページを大幅にリニューアルしました。
2. 「チャット」、「スケジュール表」、「インデックス型HP内検索」、「自己紹介の部屋」、「もぐらたたき」の開発・設置、維持管理をしました。
3. マップのテキスト版を掲載しました。
4. 「ふれあいサロンML」新規立ち上げと管理体制見直しをしました。
5. スタッフ勉強会:「ホームページの基礎(HTML言語)」2003年1月より毎月2回実施、矢野睦男講師、参加者8名。

2003年＜スタッフ22名＞

1. 「ふれあい体験談コーナー」「サロン事例集」「ブログ」を創設しました。
2. スタッフ勉強会:「ホームページの基礎(HTML言語)」2003年4月～9月の月2回 矢野睦男講師 スタッフ総数22名。

(1)「ふれあい体験談」

中途視覚障害者が、各々の持ち味で体験談を描いた随筆やノンフィクションが大好評で、同じ境遇の仲間たちの支持を得ました。ユーモアあふれる話や、誠実な人柄がにじみ出る作品に対し、障害の有無を超えて共感を得、発表の場を得た著者は、続々に投稿しました。投稿をきっかけに、その生きざまに声援を送る人々の存在を知り、自分が社会貢献していることに気づき、自信を持つことができました。障害理解には、障害者の本音の部分を適切に表現できる文章表現力のあの人たちの存在が重要だということがわかりました。

(2)「ふれあいML」

利用規定を逸脱する投稿があり、一時中断しましたが、管理人と運営委員会が規則遵守の方針による連携プレーで沈静化しました。電話での区社協へのクレームに対し、職員が適切に対応したため、当人は反省し、その後も引き続き、その場を拠り所として参加しています。



2004年＜スタッフ27名＞

1. 10月4日トップページを全面的に更新しました。
2. blogの設置をしました。
3. 「チャットルーム」の更新をしました。チャット開催3回。
4. アクセシビリティ管理担当の設置をしました。
5. 「耳より情報」の登録・整理をしました。
6. 赤外線音声情報案内システム体験会を開催しました。参加者26名(会員外も含む)
7. ブログ勉強会を開催しました。参加者26名
8. 施設訪問取材をしました。8箇所、参加者9名
9. 「ジグソーパズル」「お絵かき掲示板」の設置をしました。

2005年＜スタッフ28名＞

1. 「全国版バリアフリーマップ」(ABS21推奨マップのリンク集)を掲載しました。
2. Notaを設置しました。
3. アクセシビリティ・チェック会議の開催(6月24日、9月24日、10月8日)および、ウェブ・アクセシビリティ・チェックを実施しました。
4. 「耳寄り情報」への自由登録を廃止し、HPスタッフ登録に変更しました。

＜あおばバリアフリーサロンのHP制作に関わって＞私がABS21に参加したのは2002年で、当時にはまだ珍しい「ホームページのバリアフリー化」の仕事を始めた頃、メンバーの安江さんと知り合い、一緒に参加させてもらったことがきっかけでした。自己紹介の際、三竹代表の目がキラッと輝いたのを今でも覚えています。出会うべくして出会ったのだと思いました。その後、サロンのホームページをバリアフリー化する機会を与えていただき、フルCSSの手法を使い、視覚障害の方にも閲覧しやすいよう配慮しました。私のWEB制作者としての原点がここにあると思っています。
(アクセシビリティ管理人 羽川順子 記)

2006年＜スタッフ32名＞

ふれあいML参加者の投稿原稿によるページを創設しました

2007年＜スタッフ31名＞

1. 全国マップデータの更新をしました。
2. 「共生社会への理解のために」を新設しました。
3. 2000年より続いていた「ふれあいML」については、インターネットを活用したバリアフリーなおしゃべり空間の創設という初期の目的を達したため、閉鎖しました。

2008年＜スタッフ25名＞

スタッフが各自の役割・技術の範囲内で作業し、アドバイスも得ながら、最終工程に至るまでチームワークで作業しました。青葉区周辺地域の福祉施設・団体紹介について、紹介から時間が大幅に経過していた施設に訪問し、情報の更新を行いました。・全国マップデータの更新をしました。・「耳より情報」掲示板は、投稿数が減少していること、インターネットが普及し、個人で情報検索をすることが容易になったこと等の理由から役割を終えたと判断し、閉鎖しました。

インターネットサロン



文責: 矢野・山中

インターネット上でのバリアフリーなコミュニケーションを目指し、パソコン操作方法の取得、および情報発信の方法を学ぶことを目的とします。

活動日 : 第2、第4土曜日の13時から15時
1月と5月は総会と新年会を開催するためサロンは年間22回の開催
活動場所: ふれあい青葉2階 団体交流室



主として、障害のある方や高齢の方のパソコン操作方法の取得を目的として、パソコンに慣れ親しむためにお互いが教えたり・教えられたり、サロン形式で行います。スタッフが側面よりサポートを行います。会員以外の方でも自由に参加出来るようにし、パソコン未経験の方にパソコンにふれる場を提供します。2008年度には延543名の参加がありました。

講習会&ミニ講習会

時々、テーマを決めて講習会を開催しています。実用的なソフトの使い方、パソコンの操作法について一定の時間をかけて詳しく学べる場を作っています。また、スタッフのスキルアップの機会を提供しています。

今後のサロン運営

最近は視覚障害の方のニーズが増えて、せっかくサロンにきても順番待ちの時間の方が多いこともあります。

今後、音声ソフト対応スタッフの養成講座も実施して、スタッフ増強をしていきたいと思っています。

勉強の後はティタイムで一服します。時には、とてもおいしい手作りお菓子もいただけます。

この時間を楽しみにサロンへ参加する会員もいるみたいです。

主な講習会等の内容

- ・CD作成
- ・EXCEL入門
- ・Windowsショートカット紹介
- ・検索エンジン紹介
- ・年賀状作成
- ・スクリーンリーダー講習会
- ・ビデオ画像取り込み方法
- ・Word応用(写真画像)



パソコンの保守管理

通常インターネットサロンの行われる日の午前中、次のような保守・管理作業を行っています。

1. Windowsのアップデート
2. ウイルスセキュリティのアップデート
3. サロンなどで保存された一時的なファイルの削除
4. 無線LANの接続状況その他各機器の調子の確認



常時使用されておればアップデートなど自動的に行われてあまり問題とはならないのですが、2週間に1度しか使用されないのでアップデートが溜まっていて時間が掛かったり、バッテリー残量が0になったりして起動できないことがあります。

また、不特定多数の方が使用されているので、一時的に使用されたファイルがそのままゴミとなって残っています。フリーソフトなどが安易にインストールされていて、その取り扱い(原則削除)にも困っています。

管理者からのお願い

- ◇ 必ず終了処理を行って終了してください。
- ◇ 一時的にインストールしたソフト及びデータファイルは終了時には削除してください。
- ◇ 次回にも必要なデータファイルはマイドキュメントに専用のホルダーをつくりそこに保存して、デスクトップには残さないようにしてください。

社協のパソコンは不特定多数の方が使用しています。
みんなが快適に使えるよう、よろしくお願いします。



訪問サポート

会員の要請に応じて、自宅へ訪問し、パソコンの調整、リカバリーを中心にパソコン環境をサポートしています。



管理している機材

ノートパソコン 10台

IBM 製 OS:Windows XP(SP3) 6台

HP 製 OS:Windows Vista 2台

東芝製 OS:Windows Vista 2台

apple 製 iMac 1台

無線LAN関係

無線LANアクセスポイント 1台

無線LAN子機(4ポイント) 2台

無線LAN子機(1ポイント) 2台

その他

スキャナー 1台

プリンター(A3対応) 1台

プリンター(A4対応) 1台

バリアフリーマップ

文責:栗木・星野

わたしたちは、障害のある外出が困難な人たちやベビーバギーを押すママさんたちが、毎日を快適に、そして、生き生きと過ごせるまちづくりを推進するために、食事やショッピング、娯楽など誰もが楽しめる駅周辺の街を取材し、「あおばバリアフリーマップ」となづけた情報マップを作成し、車椅子や杖使用でも入りやすいお店をホームページに公開していくという活動を、横浜市青葉区社会福祉協議会の協力をいただきながら、2000年秋より実施しております。



「あおばバリアフリーマップ」の中に、電車の線路が記してあります。駅名脇のリンク先をクリックすると、その場所へ移動し、商店街の紹介があります。現在、青葉区、都筑区の一部を取材して掲載しています。



マップ活動報告

外側から判断して障害者が安心して行ける店舗（たとえば、急な階段がないところ、通路幅が広いところ、陳列棚が低いところ等）を選んでいますが、2000年発足当時の店側の対応は、「料金をとられるのではないか」、「嫌がらせをされるのではないか」というようないぶかしげな気配を感じることもありました。しかし、フィールドワークの実施にあたっては、地元商店会など商業関係者の理解と協力を得ながら、「ともにバリアフリーのまちを作っていく」という理念を共有しながら継続しているうちに、店側の態度が変化し、年々協力的になってきました。ABS21との接点をもつことにより、街の理解者がふえていることは、ほんとうに喜ばしいことです。

たとえば、2001年の頃、ある大手スーパーマーケットは、「本社に聞いてから」と言って、店内取材を断られたものです。しかし、翌年からは、特別な整備したわけではないのですが、貨物用エレベーターを車椅子やバギー用に使うという社内の申し合わせができ、取材はスムーズに運びました。また、多目的トイレを設置したり、歩道から店内へスロープを設置するなど、改善してくれる店もでてきました。また、バリアフリーに改装したから、取材に来て欲しいというような店舗も出てきました。

確認事項

- ・フィールドワークの対象は遊び心に主眼を置いて、ショッピング・飲食店・娯楽施設などに絞ります。
- ・店の物を破損するなどの万が一の事故や、ケガや交通事故の心配を、スタッフがしていたので、2002年度からは、ボランティア保険に加入しています。

バリアフリーマップは、岩崎学園情報科学専門学校と(株)スリー・ディの協力で、印刷・製本して冊子化しました。青葉区役所売店と青葉区社協で一部300円で頒布しています。昭和大学藤が丘リハビリテーションセンターからは、患者用にマップの注文がありました。尚、このセンターの紹介で、インターネットサロンに参加するようになった人もいて、顕著なリハビリ効果が現われています。

マップ制作フィールドワークは、外出が困難な方にとって、外出のキッカケとなり、交流しながら情報を得る場でもあり、病気になる前に、勤務先で営業活動をしていたスタッフにとっては、昔とった杵柄で、回想法的なリハビリ効果もあるようです。時には、会員外の障がい者の応援もあります。

最近では、視覚障害者向けに、駅構内の情報を音声読み上げソフトで聞いてもらえるように、テキスト版の原稿の見なおしに着手しています。

バリアフリーマップのフィールドワーク、参加者と実行回数

年度	参加者、延べ人数	フィールドワーク、回数
2000	26	3
2001	44	4
2002	74	9
2003	64	6
2004	65	22
2005	28	5
2006	42	10
2007	29	11
2008	40	10

講演会・公開講座



文責:三竹

いつも区報でお知らせしていますので、地域の方々が参加してくださいました。私たちの問題意識をよりよく伝えてくださる障害当事者やご家族の方を講師にお招きし、実体験に基づくお話によって、「こころのバリアフリー」のコンセプトの普及に務めてきました。人は、人のぬくもりを通して、変っていきけるのだと思います。

バリアフリー講演会

「ろうを生きる 難聴を生きる」～”身体表現”によるコミュニケーションを追究する～

講師:南村千里氏

開催日:2009年11月14日(土) 21名

場所:ふれあい青葉2階多目的研修室

【南村千里さん】ロンドンを拠点にご活躍中のグローバルなお話に感激しました。(三竹眞知子記)

バリアフリー楽語会

「障がいなんてヘッチャラだい！」



噺家:林屋かん平

開催日:2009年1月24日(土) 52名

場所:ふれあい青葉2階多目的研修室

バリアフリー講演会

「差別偏見大歓迎 べてるの家のバリアフリー」

講師:斉藤道雄氏(ジャーナリスト)

開催日:2008年2月23日(土) 52名

場所:ふれあい青葉2階多目的研修室

【斉藤道雄さん】今回は「精神障がい」にスポットを当てました。「べてるの家」とは、北海道の浦河町にある精神障がい者を中心とした共同生活体のことですが、そこで暮らす人へのインタビュー映像などを通して、「当事者研究」と呼ばれるミーティングの特徴などについて、分かりやすく解説していただきました。(三木清史記)

バリアフリー講演会

「心に元気、踏み出す勇氣」

講師:三宮麻由子氏(エッセイスト)

開催日:2006年8月26日(土) 49名

場所:ふれあい青葉2階多目的研修室

【三宮麻由子さん】「本当のバリアフリーとは何か」ということをテーマのひとつに掲げ、三宮氏のウィットとユーモアを含んだ幅の広い話を伺いました。定員を超える参加者で会場は混みあっていましたが、みな講話に耳を傾け、笑い、楽しい時間を過ごすことができました。参加者の中には遠くは小田原からいらした方、盲導犬をお連れの方もいらっしゃいました。数々のメディアでおみかけし、お忙しい三宮氏ですが、当会からの熱い思いを理解していただき、快く講演をしてくださいました。「障害はけっして克服できませんが、無理に受容するのではなく、ひとつの特色として認識すると、プラス要素として活用できるようになる」という三宮氏の言葉に、世の中にある全ての「不公平」について「踏み出す勇氣」をいただけたと思います。また、三宮氏と時間を共有し、コミュニケーションをすることによって生まれた「心に元気」を参加者も感じる事ができたように感じました。「心に元気、踏み出す勇氣」をいただいた方はたくさんいらっしゃると思います。その踏み出す勇氣を育てるのは自分自身です。(河内廣美記)

公開講座

「ホームページの情報をさがしてみよう」

講師:溝井正美氏(NPO法人日本パソコンインストラクター養成協会)

開催日:2008年3月22日(土) 25名

場所:ふれあい青葉2階多目的研修室

バリアフリー講演会

「わかりやすい・読みやすい記事の書き方」

講師:タウンニュース都筑区版編集長 磯村達也氏

開催日:2005年7月23日(土) 45名

場所:ふれあい青葉2階多目的研修室

バリアフリー講演会

「ITを活用して甦った私」

講師:家本賢太郎

(株)クララオンライン代表取締役

開催日:2005年2月5日(土) 32名

場所:青葉区役所別館2階社協会議室

公開講座

「楽しく安全にインターネットを楽しもう」



ビギナーのためのインターネット護身術」

講師:野間俊彦氏

開催日:2004年11月20日(土) 36名

場所:青葉区役所別館2階社協会議室

公開講座「インターネットを楽しもう」

第一部「インターネットの楽しみ方」

第二部「インターネットを利用する方のためのルール&マナー集」

講師:第一部:トニー・ラズロ氏、

講師:第二部:王子全主氏

開催日:2003年11月1日(土) 40名

場所:青葉区役所別館2階社協会議室

講演会

「ユニバーサルデザインのまちづくり」

講師:川内美彦氏

開催日:2003年9月6日(土) 49名

場所:青葉区役所別館 2階 社協会議室

公開講座「PCサポータ養成講座」

講師:山野裕氏・田所淳氏他

(アシスタント、スタッフ:延べ45名)

開催日:2003年5月24日/6月14日/21日/28日/
7月26日(土) 延べ59名

場所:青葉区役所別館1階当事者団体交流室

講演会

「介護をインターネットで支えられて」

共催:介護者サポート「ほっと青葉」

講師:藤田幸子氏

開催日:2002年11月9日(土) 27名

場所:青葉区役所4階会議室

公開講座

「楽しく安全にインターネットを楽しもう」

講師:野口邦夫氏・徳田容子氏・王子全主氏

開催日:2002年 9月14日(土)

場所:青葉区役所別館2階 社協会議室

講演会 ホーキング青山に聞く！

「大人になるまでのこと大人になってからのこと～」

当事者だから笑って言える・笑って聞けるホントのこと～」

共催:マザーズ・ジャケット、青葉区社協「青葉子育てのびのび広場」 後援:ABS21

講師:ホーキング青山氏(本名:青山世多加(せだか))

開催日:2002年7月12日(金) 100名

場所:青葉公会堂 講堂

講演会「教育ってなんだろう？」

学校ってなんだろう？」

共催:マザーズ・ジャケット

講師:最首 悟氏

開催日:2001年11月26日(月) 44名

場所:青葉区役所別館2階 大会議室

講演会

「子育てってツマラナイ？」



講師:中畝 治子

開催日:2001年7月6日(金) 102名

場所:青葉区役所別館 2F 大会議室3. 4



ABSふれあいの会バスハイク

たまにはみんなでどこかへ行きたい」2007年度からは、福祉バスを利用したバスハイクを行って会員同士の親睦を深めています。希望を会員から募集して、幹事で詳細を詰めて実施しています。

活動日:

会員の参加しやすいサロンのない土曜日 移動しやすい平日の年2回開催しています。

活動場所:

近郊100km程度



場所選びのポイント

- 視覚障害の人も車いす利用者も一緒に楽しめる
- 多目的トイレが設置されている
- 9時に出発して無理なく帰ってこられる距離である

「ふれあいの会」(バスハイク等を企画)の担当となり、その時に旬な場所に行くことを念頭に、まず皆さんの安全性を第一義にして、皆に喜ばれるような企画を心掛けたいと思います。

ふれあいの会代表 岡島



トラクターツアーでは、普段知ることのできない牧場の様子やめずらしい動物たちに触れることができ、とても楽しかった。(参加者の声より)



第1回	横浜港クルーズ	2007年8月29日(水)
	横浜大桟橋から市の広報艇「はまどり」に乗って、港を見学し、昼食後、キリンビバレッジのビール工場を見学しました。	
第2回	マザー牧場	2008年3月15日(土)
	春の牧場で動物との触れ合いながら“のんびり”してきました。	
第3回	横浜市防災センター&暑気払い	2008年8月2日(土)
	防災センターと特殊消防車を説明付きで見学、体験をしました。その後、ランドマークタワー内のビアガーデンで暑気払いを行いました。	
第4回	春の房総 お食事会	2009年3月6日(金)
	バリアフリーのいちご園を訪れた後、見返り美人で有名な浮世絵師菱川師宣記念館を訪れました。	
第5回	芦ノ湖畔散策とバーベキュー	2009年10月20日(火)
	芦ノ湖畔でのバーベキューの後、近隣を散策しました。	

バリアフリーの施設

菱川師宣記念館は職員の気持ちがバリアフリーな施設でした。通常は履物を脱いで見学する施設ですが、風雨の強い悪天候の日を訪れた私たちに、靴の着脱が大変な人には雑巾を用意してくださり、土足のままの見学を許可してくださったり、一部展示物を触らせてくださったりしました。



生活を豊かにする勉強会

生活の質をよくしていくために、時折、料理や口腔ケア、個人情報保護などの勉強会を開いています。

活動日：

サロンのない土曜日やサロン終了後の1時間程度で年に1、2回開催しています。

お口のケアの勧め

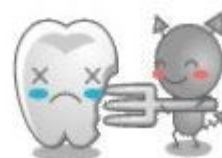


第1回	歯科衛生講習会	2007年11月13日(土)
	正しい歯磨きの仕方/入れ歯のお手入れ/その他	
	講師: 岩岡廣美氏	参加者: 11名
第2回	口腔ケア勉強会	2008年11月8日(土)
	歯磨きの仕方と唾液腺のマッサージ	
	講師: 岩岡廣美氏	参加者: 11名
第3回	口腔ケア講習会	2008年10月24日(土)
	頬筋と口輪筋、舌のトレーニング	
	講師: 岩岡廣美氏	参加者: 14名

普段、なにげなく使っているお口の筋肉や表情筋ですが、これらの筋肉も身体の筋肉と同様、使わなければ衰えてきます。口の中の筋肉も使うことによって、唾液の分泌を促進したり、唾液と食物を混ぜ合わせたり咀嚼したり、飲み込むことが出来たり。また、コミュニケーションをとるにも話をすることや声を出すことにも繋がっていきます。

残念なことに病気になってしまった後も、筋力の衰えはあるかもしれませんが、使うことによって機能を回復することもできます。また、日頃トレーニングを少しでもやっているといないとでは、歳を重ねてから。病後でも違いはあると思いますので、身体だけでなく、顔やお口の筋肉トレーニングも欠かさずしていただけたらと思います。

第3回時の 講師のお話より



料理教室



第 1 回	健康	2007 年 8 月 12 日(土)
	生活習慣病(メタボリックシンドローム)の予防 とリスクの改善について 講師: 長宗キミヨ氏 参加者: 18 名	
第 2 回	料理教室	2008 年 8 月 16 日(土)
	片手で作る日常的な献立の工夫 @アートフォーラムあざみ野「生活工房」 講師 長宗キミヨ氏・嶋田房野氏 参加者 16 名	

食と健康は、一生に関わることで、皆
さまが参加できる料理教室や、食事の献立、
栄養のバランスなどなど、食に関する会を実
現できたらと願っております。
講師 長宗キミヨ

料理教室は凄く楽しかったです。スタッフの
方特にご苦労様です。またやれるといいで
すね。
(-) 参加者の声





● 横浜市社協・行政などとの連携

横浜市社会福祉協議会には、ABS21が先駆的にウェブを活用して障害関連の情報収集提供活動をしていることが評価され、障害福祉情報システム構築のためのヒアリングの対象に選ばれました。経験上「データベースとしてのウェブに情報の蓄積は必要ですが、そのデータを直接活用できない障害者のために、「暖かいヒューマンな対応のできるナビゲーターを配置したコールセンターのような中間組織の必要性」などを提案し、よこはまナビゲート事業に繋がりました。

2004年から3年間、青葉台駅周辺福祉のまちづくり重点推進地区協議会委員にABS21代表が委嘱されました。協議会委員のうち、副会長はじめ5名が当会員でした。「福祉の目で見えるまちあるきイベントには、会をあげてサポートし、バリアフリー検証だけでなく、音声読み上げソフトの紹介、活動紹介のパネル展示やマップ販売、バリアフリーコンサートの企画・司会・演奏などに協力してきました。



視覚障害者理解のためのワークショップは、成功を収めました。ま



ちづくり提案部会は、視覚障害者のサポートガイドカードを作成することになり、原案づくりに当事者会員が参加しました。区役所から、ラミネート加工したカードの制作を委託され、障害のある会員が制作にあたりました。川内美彦氏・関根千佳氏講演会のコーディネートを担当しました。

2008年からは、アートフォーラムあざみ野からの依頼で、駅から施設までの動線の検証や館内のバリアフリー検証に協力しています。

その他の連携事業

- 「横浜市協働のありかたシンポジウムのバリアフリーカフェ」への参加
- 「横浜市福祉のまちづくり推進指針」見直しのための市民意見交換会への参加
- 青葉区ボランティアネットワークシステム検討委員委嘱
- 青葉区中途障害者を対象とした「機能訓練教室のパソコン体験講座」の実施
- 緑区生涯学級でのバリアフリーマップ制作に関する講義

地域の人たちに対しては、バリアフリー講演会や公開講座のチラシを配布したり、参加者を区報で募って、バリアフリーコンセプトの普及に務めてきました。自分たちが「動き、ふれあう」ことによって相手の反応も変わっていき、街の人たちがどんどんやさしくなってきたということを強く感じています。

● 大学・学校などとの連携

大学や専門学校での授業・講義・発表や小中学校の福祉教育への協力等を行っています。青葉台中学でのネットデイ協力、川和中学での若葉祭、情報バリアフリーIT講習会講師、茅ヶ崎東小学校4年4組とのバリアフリーマップ制作ジョイント作業など様々です。



授業・講義・発表等を行った大学など

武蔵大学
慶応大学(安村研究室)
釜山国立大学
横浜市立大学
桜美林大学
東京女子大学
横浜国際福祉専門学校

再編に関する総合的研究」市民活動団体調査報告書―横浜市青葉区・川崎市宮前区周辺を東京都立大学都市研究所(玉野研究室)「大都市における環境と社会経済システムの事例として---の論文のためのヒアリングを受けました。

玉野助教授によれば、横浜市青葉区と川崎市宮前区は、東京の郊外住宅地で、特徴的な住民活動を生み出した地域として、全国的な注目を集めてきたそうです。報告書には、この地区を拠点とする数ある団体の中から抽出して取材し、さらに17の市民活動団体に絞ったレポートが掲載されています。

実際にお話してみて、「障害者」の方々も「普通の人」なのだという、ごく当たり前のことに気づかされました。というよりも、今日お話した方々は「障害者」という感じがしなくて、いかに私自身が「バリア」を作っているのかという、普段なら見えてくることのない面が見えたようにも思います。～玉野助教授より～

榎が丘小学校でのふれあい交流会は、2006年10月および2007年2月に開催されました。ふれあい交流会で、どんなときにどのようにサポートすればよいのかがわかった子どもたちが、視覚障害者が街を歩いているとどこからともなく寄ってきて、「信号が青になったよ」などと教えてくれるなど、何かとすぐに手伝ってくれる子どもたちが増えてきたということです。10年前には、駅の券売機の前で30分近くうろちまわっていても、誰も声をかけてくれなかったとか……。



●企業との連携



企業からはヒアリングを受けたり、ABS21の活動にご協力をいただいたりしています。また、「第8回高齢者・障害者の立場でマルチメディアを考える老テクシンポジウム」には、IBMの機材を利用して視覚障害者サポート養成講座を開催した経緯で、ABS21の存在が知られ、発表を依頼されましたので、取り立ててITスキルのない主婦が、ユーザー側を代弁する立場で、障害者のIT化支援に携わってきた経緯を報告しました。

東急総合研究所様「ネットコミュニティ」勉強会が、身体的ハンディのために、自分から積極的に外に出られなかった方たちが、ネット環境により生活がどう変化したかを明らかにするという目的でヒアリングにいらっしました。



「一般ユーザーはハード面でのハードルが高い。ただし、ネット環境はコミュニケーションを伝達する道具なので、皆さんの活動がディスプレイの中だけにとどまらず、地域と対話を大切にされており、地道にチャレンジしていることは最も必要なコミュニティ(ソフト)を新たに開発していることではないでしょうか。何事も前向きな考え・実践が一番大切なのだと思います。

東急総合研究所「ネットコミュニティ」勉強会

野村総合研究所様からは、NTTドコモの携帯電話に関し、ヒアリングを受けました。

NTTドコモ様は、携帯電話の使い方説明に社員を派遣してくださいました



近隣の商店街の皆さまのご協力もいただいております

キヤノン様からは、デジカメについてヒアリングを受けました。また、バリアフリーマップ制作のフィールドワークに参加し、写真撮影や報告書作成に協力してくださいました。

東急電鉄様には、青葉区内の各駅構内の取材に際し、いつも快くご協力いただいております。



三菱プレジジョン様の協力で、赤外線音声情報案内システム「トーキングサイン」の体験会を実施しました。



日本ユニシス様からは、電動車椅子やシニアカー利用者のための充電サービスによるバリアフリー環境整備について、ヒアリングを受けました。



● 中間支援組織との連携

青葉区社協が別館を拠点としていた時代には、あおばボランティア・フェスティバルに出店して協力しました。横浜市市民活動支援センター主催「夏！市民活動体験塾」より塾生を受け入れ、機動力が増し、更新作業および冊子印刷製本作業がはかどりました。



ほかの塾生たちのさまざまな団体での体験談などを聞いたりもしましたが、その比較の中で、私はかなりいろいろ学ばせてもらい、ラッキーだったな、と改めて思いました。この夏、ABSに参加させてもらったことで、普段日常を過ごしているだけではわからないソフト面、ハード面でのバリアを感じることができましたし、そのバリアを変えるための努力というのは、どれだけしても実際報われないこともあるのだな、と社会を変えていくことの難しさも感じました。活動を通して得られたことは、私なりの形で広めていきたいと思っています。ABSに参加できて、有意義だったと同時に楽しかったです。



～学生からのメールより～

● 同系団体との連携

地域の人たちのみならず、障害者同士にとっても、縦割りの障害者団体に所属しているので、横つなぐりの地域での関わりに新鮮さを見出しています。当会は、PCサポートグループ・視覚障害者団体・中途障害者地域活動センター・作業所などのリーダー役割の人たちや福祉施設・福祉系企業勤務の人たちが集っているので、ネットワーク・コミュニティともいえるのではないのでしょうか。

(財)日本障害者リハビリテーション協会実施
「地域におけるインターネット・パソコンを利用した障害者情報支援に関する調査研究」に協力しました。

ジェントルタウン倶楽部主催「フォーラム：『触る地図』を考える」のパネリストとして出席しました。



● 物品の寄贈など

岩田デザイン様から「目にやさしいキーボード」、スキャンソフト様より「ピアボイス」15台、NPO法人自立の魂様より「Web Adaptation Technology」(Web活用にあたり発生するデジタルデバイドを改善するため、IBMが開発した)ソフトウェアの提供を受けました。岩崎学園情報科学専門学校は、バリアフリーマップの製本化、そして、(株)スリー・ディ様は、印刷に協力してくれました。

このように様々な組織と連携させていただき、多彩な活動ができましたことを記し、紙面上ではありますが、お礼申し上げます。

資料1(アンケート調査)

文責:三木

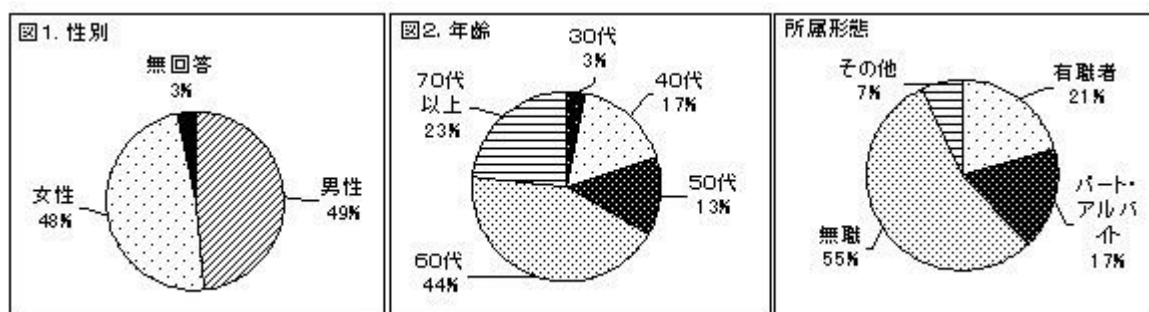
ABS21の設立10周年を迎えるにあたり、会員を対象としたアンケート調査を実施しました。以下に、その結果を報告します。

■ 調査概要

目 的:ABS21への入会動機、活動状況や感想などを確認することで、今後の運営に反映する。
対象者:ABS21の全会員(65名)
期 間:2009年8月22日～9月12日
方 法:質問紙調査(1択式と、3つまでの複数選択式の2種類の項目、および自由記述により構成)。
インターネットサロンでの配布、および、電子メールによる依頼(視覚障がい者に対しては、サポーターが対面による読み上げと代筆により対応した)。

■ 回答者の内訳

回答者:31人(メール回答:17人、筆記回答:14人)。回収率49%
年 齢:30代1人、40代5人、50代4人、60代13人、70代以上7人、無回答1人。
性 別:男性15人、女性15人、無回答1人。
活動期間:5年以上 15人、1年から5年 14人、1年未満 2人。
所属形態:有職者6人、パート・アルバイト5人、無職16人、その他2人(NPO法人、在宅ヘルパー)、無回答1人。

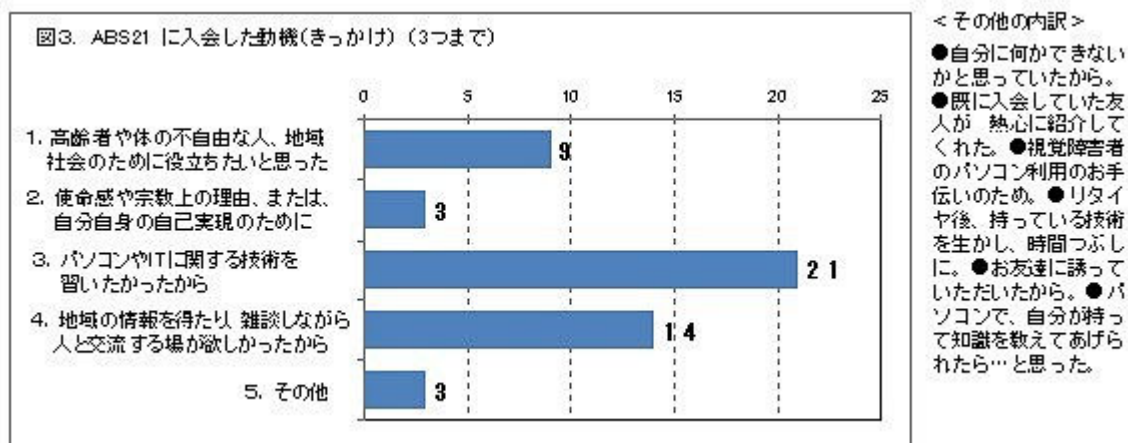


■ 集計結果

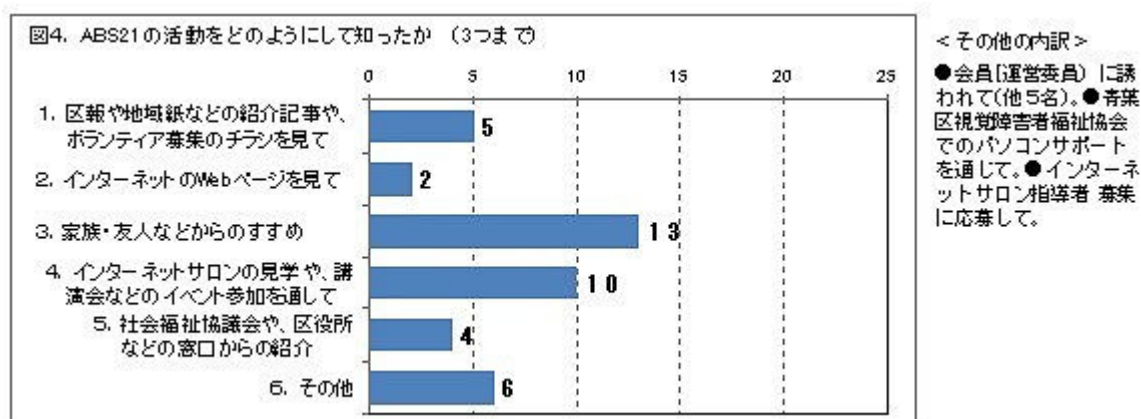
以下より報告する数値は、1択項目は「人数」、複数選択は件数「P(ポイント)」を示す。
「その他」の回答数は、その他以外の項目を選択していないものだけを対象にカウントした。

1. 入会動機とABS21の活動をどのように知ったか

ABS21に入会した動機は、「パソコンやITに関する技術を習いたかったから」が21Pと最も多く、続いて「地域の情報を得たり雑談しながら人と交流する場が欲しかったから」が14Pとなった(図3)。



ABS21の活動をどのようにして知ったかについては、「家族・友人などからのすすめ」が13P、「サロンの見学や講演会などのイベントへ参加を通して」が10Pであった(図4)。その他の内訳ではABS21会員からの紹介として会員の名前を挙げる人が多く、Webや広報誌などのメディアよりも、人を介して知るケースが多い。



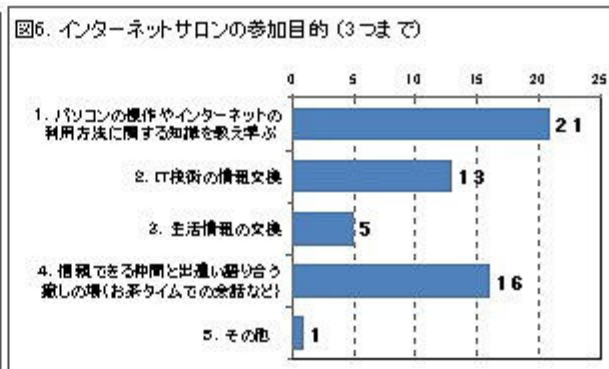
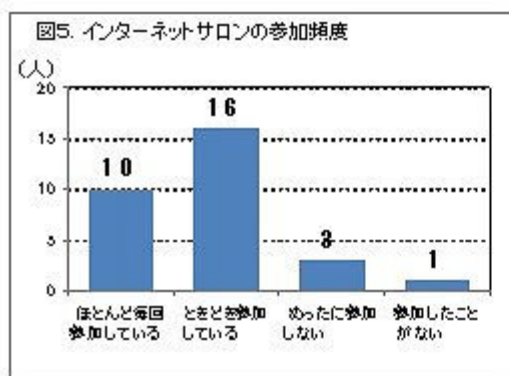
2. 活動状況

ABS21の主要な3つの活動テーマ(「インターネットサロン」「バリアフリーマップ作成」「バスハイク」)の参加頻度と参加形態に関する設問には、下記のような回答が得られた。(各活動の内容に関しては本文の「活動紹介」のページを参照)

2-1インターネットサロンについて

参加頻度は、「ほとんど毎回参加している」が10人、「ときどき参加する」が16人となり、回答者のほとんどが参加経験を持っている(図5)。

参加目的としては、単にPCやITに関する知識・技術の取得ばかりでなく、仲間との交流を通した「憩いの場」(お茶タイム)を通しての人との交流を参加理由として挙げている(図6)。

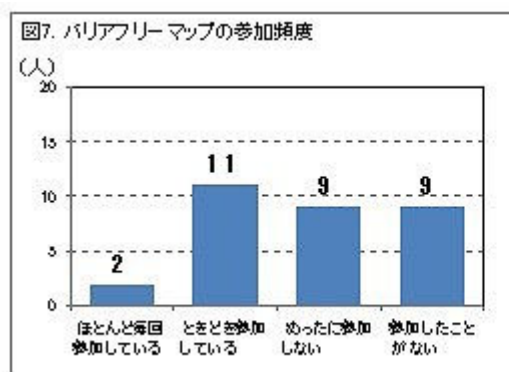


<その他の内訳>

- 自分に必要なパソコン スキルを教えてもらえるし、自宅まで訪問してトラブルを解消していただいている、感謝に耐えません。
- 個人のホームページが作れた！！ 一番うれしい！！
- 印刷機がないので、印刷をABS21からしていただいた！！
- 故障を直していただいた！！
- パソコン等自分が分からない事が発生した場合解決出来る安心の場として？
- 会の運営に関する意見交換・調整の場
- バスハイク等、会員同士の打ち合わせの場として利用することもある。(みんなの都合がつく時間帯のため)

2-2 バリアフリーマップ作成活動について

参加頻度は、「ほとんど毎回参加している」が2人、「ときどき参加する」が11人であった(図7)。インターネットサロンと比較して参加者が少ないのは、フィールドワークの区域による分担制、変則的に開催されることが要因として考えられる。活動に対しては、「地域情報を得ることができる」の件数が最も多く16P、次いで「地域の人との交流を通してバリアフリーの概念を広めることができる」が10Pとなった(図8)。自由記述に、不参加理由としてご自身の障がい挙げた人がいた。フィールドワークには、すべての人にとって暮らしやすい街であるかを検証するという目的もあるので、障がいの有無に関わらず、参加しやすい活動方法を検討する課題のあることが伺える。また、取材後のHP化作業に対する負担感が4Pあり、作業感軽減のための施策検討が必要と思われる。



<その他の内訳>

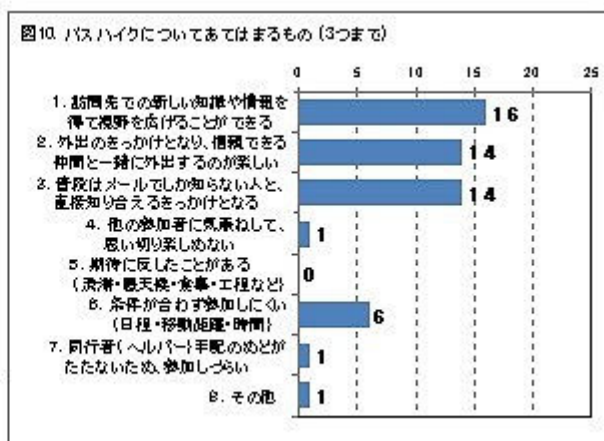
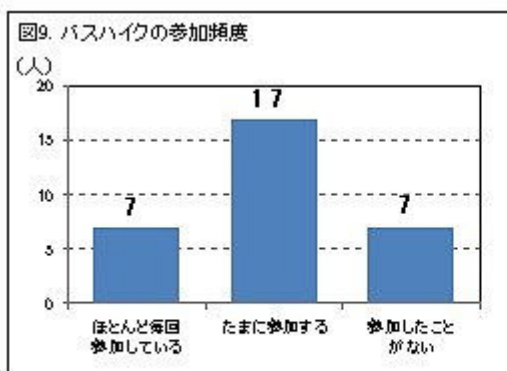
- 障がい者が主体的にまちづくりに参加できる場である。
- マップの内容が本当に役に立っているのか、この情報を欲している人はどのような人なのか悩むこともある
- どのくらいのニーズに応えられているのか？
- 全盲の視覚障害のため、役立たない
- 私は視覚に障がいがある為、出来上がったHPを見て、自分の活動範囲の確認をさせていただいています。

2-3 バスハイクについて

参加頻度は、「ほとんど毎回参加している」が7人、「たまに参加する」が17人、「参加したことのない」が7人であった(図9)。バスハイクは2年前から始まった新しい活動であり、4回しか開催されていない(アンケート実施時点)が、24人が参加経験を持っている。

参加した感想としては、「訪問先での新しい知識や情報を得て視野が広がった」16P、「メールでしか知らない人と直接知り合えるきっかけとなる」14P、「外出のきっかけとなり、信頼できる仲間と一緒に行動できるのが楽しい」14Pなど、参加する利点を挙げる人が多かった。

その一方で、「条件が会わずに参加できない」の回答が6Pあった(図10)。

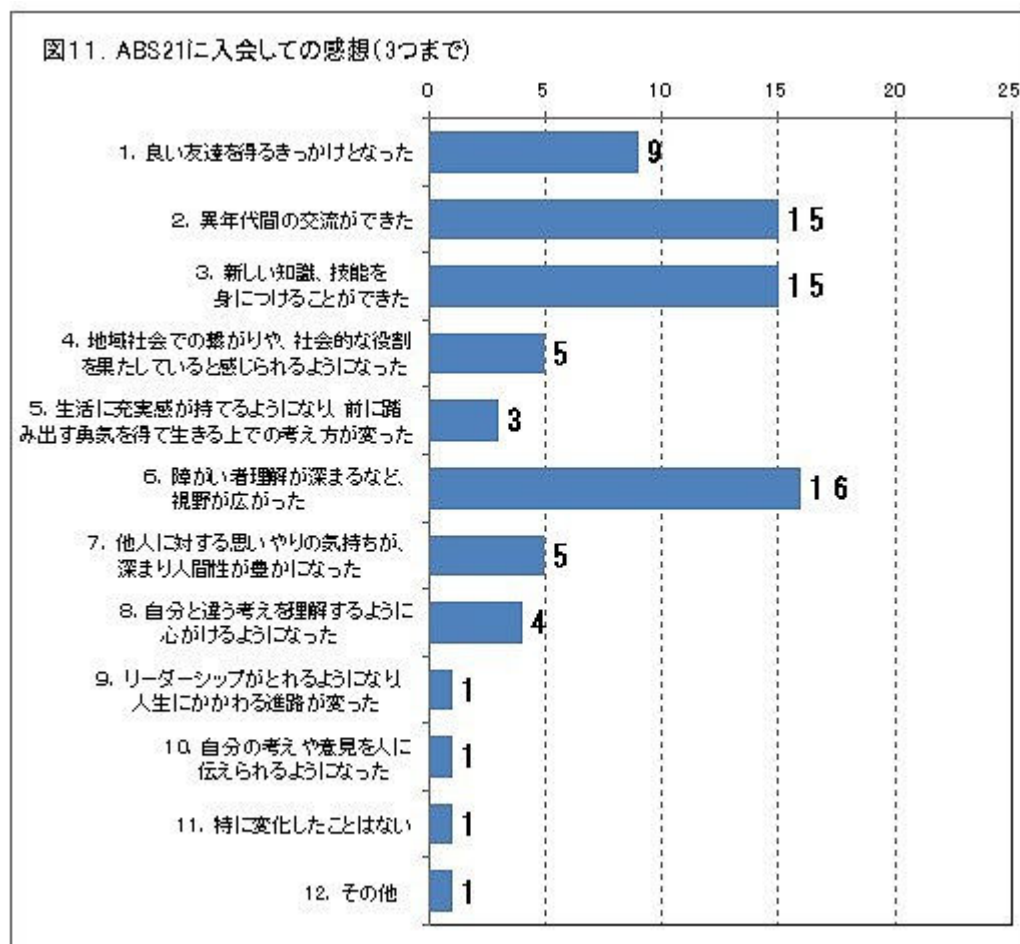


<その他の内訳>

- 参加者同士の交流を深めるイベントにしたい
- 腰痛(ぎっくり腰入院あり)長時間同じ姿勢で座っていることが無理。残念です。

3. ABS21に参加しての感想

既存会員(設立者含)からの勧誘を参加理由に挙げる人が多いが、実際の活動をしてどんな感想を持っているかについて尋ねたところ、上位項目としては「障がい者理解が深まるなど視野が広がった」が16P、「異年代間の交流ができた」が15P、「新しい知識、技能を身に付けることができた」が15Pであった。異世代間交流や障がい者理解など、他者を理解するという効果につながっている。



4. これからのABS21の活動に望むこと

自由記述形式により、これからのABS21に対して望むことや取り組んでみたい活動に対する意見を求めたところ、12名からの回答があった。

主な意見としては、インターネットサロンの開催日や、貸し出し用PCの不足、サポート体制に対する要望などが挙げられている。インターネットサロンでは、サポートを必要とする方(特に視覚障がい)に対する配慮が行き届いていないという改善項目が挙げられている。

自由意見に寄せられた内容

- メールだけしか出来ないのも、何を聞いて良いのかわからない。
- パソコンを覚えられて、楽しく生き生きとなるようなところであって欲しい。
- インターネットサロンの時間が短い。1時間半では、慣れてきたことに終わってしまう。重たいPCを持って来たのだから、お茶を飲んだ後でももう少し続けたい。3時からお茶にしてほしい。

- 来た人の希望を聞いてから、サポーターの分担などを割り振り、公平に対応して欲しい。何もサポートを受けられなかったので辞めた人もいた。
- 決まった人しか来なくなった。教える人が少ない。
- 視覚障害者へのサポート体制の強化
- 最近視覚障害者の方が多くなり、やはりサポートができる方の養成が必要だと思います
- 時間の制限あり、何回も繰り返す、なかなか進まない。また、マシンが借りられない。機械の調整に時間がとられる。
- 無理すると続かないので、できる範囲で興味のあることにだけ、取り組んでいきたい。
- 隠し事はやめましょう。(調査者注記:相手を気遣い過ぎることなく、考えを伝えましょうという意味)
- 以前は月曜日と土曜日に開催されていましたよね。私は家でマッサージを開業してますので、どうしても土曜日は外出しにくいのが現状です。だから以前のように月曜日も開催してもらいたいと思います。
- 講演は重要なイベントであり、ABS21内だけでなく、公募もしてABS21をもっと知っていただけるようにしたら良いと思います。
- サロン開始時にパソコンを机の上に置いておき各自が接続して使用する様に持って行く事によってより自立の近道と気が付いたので、今後その考えで運営に当たりたい。
- サロンの時間帯にマップ関係のテーマをお願いする様にしたい。テキスト確認・更新必要の発見等。
- 楽しく集うきっかけづくりの提供が月のうち何回かある。これだけでよいと思う。

5. まとめ

今回の調査への回答者31名の内訳は40代以上が大多数を占め、若年層(30代以下)からの回答はほとんど得られなかった。参加のきっかけとしては、発起人を中心とした会員からの誘いによるものが多く、主にインターネットサロンへの参加頻度が高い。活動形態としては、ティータイムやふれあい活動など「会員相互の交流の場」が設けられている点が評価されており、ABS21の活動目的は達成できているといえる。これらは、ITというツールや、「障がい」を切り口とした他者理解を深めてケアしあうリアルな交流の場を、会員相互の努力によって形成してきた成果であり、10年間という長期にわたって継続している理由ではないかと思われる。

いっぽうで、インターネットサロンの開催日やサポート体制に対する要望や、運営に対する提案なども挙げられ、運営面での課題があることもわかった。今後の活動をより発展させていくために、本調査結果に加え、今回の未回答者への追加ヒアリングなどを通して、これからの10年に向けて「活動計画」の策定に反映していきたいと考える。

謝辞

最後になりましたが、調査にご協力いただいた皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

■ ABS21活動年譜

■ ABS21活動年譜		ハリアフリーに関連するIT分野の主なできごと	社会福祉に関する主な出来事(法整備など)
1998年	ABS21の主なできごと 設立準備: ・「ジョブコーチプラス1」に企画書(案)提出(障害者・家族のための情報交換と交流を目的としたインターネットの活用について)		
1999年	設立準備: ・神奈川情報ボランティアMLに参加(三竹) ・1999年12月24日準備会議@社協: ABS21の基本構想を企画書(案)として青葉区社協に提出	・東急ケーブルインターネット接続開始	・国際高齢者年 ・ゴールドプラン21 ・男女共同参画社会基本法
2000年	・1月3日: ABS21設立 青葉ハリアフリーサポート21運営会議メンバーングリストを木庭袋・剣木・三竹でスタート ・1月25日: 第1回青葉ハリアフリーサポート21運営会議@社協 参加者9名 ・2月22日: 第2回青葉ハリアフリーサポート21運営会議@社協 ・4月7日(金): 今年度第1回青葉ハリアフリーサポート21運営会議 ・5月19日(金): ABS21運営会議 ・6月24日: 区社協直轄の実行委員会方式、または、自主活動をする運営委員会方式にするか意見交換の後、後者を選択、新体制で発足。会員10名・協力者5名 ・7月1日・15日・22日: 障害者の生活を快適にするための「第一回パソコン入門講座」～パソコンにさわってみよう(ウインドウズ95の基本操作)～ 受講生: 10名、講師・スタッフ: 15～17名/回 ・7月28日付読売新聞神奈川版 <障害者支援支えあえる地域システムを> ・8月29日(火): 障害児のための「ハリアフリーお絵かき教室」講師: 中畝治子氏 対象: 未就学児・小学生(障害のあるお子さん優先) 参加者 30名(受講生16名、付添8名、スタッフ3名、社協実習生2名) 協力: 「ジョブコーチプラス1」作品は国際交流ラウンジ国際児童画展に出品、10月28日ふれあいフェスティバルにて展示。 ・9月1日: ホームページ「あおばハリアフリーサロン」公開 ・10月8日: 交流広場たまりん場主催ハリアフリーハイキングの企画・実施に協力。寺家ふるさと村から区役所別館まで 参加者 151名(ハイキング実行委員: 千葉、三竹、他当会参加者7名) ・10月10日: 武蔵大学社会学部での講義「コミュニケーションと社会変化: 日本のメディア・コミュニケーションの新しい潮流」 インターネットが可能にしたコミュニケーション・ポラニアとハリアフリー・ポラニア: 横浜市「青葉ハリアフリーサポート21」の試み (木庭袋、三竹) ・11月18日: 事例報告: 経済企画庁神奈川県主催「ポラニア国際年シンポジウムinかながわ」@かながわ県民センター 分科会タイトル: 市民とNPOを元気にするインターネット(三竹) ・12月22日: 発表: 慶応大学SFCアクセス研究会(三竹) 《会員31名》	・「障害に関する世界NGOサミット」開催(北京) ・OAU「アフリカ障害者の十年」(2000～2009年) ・シドニーパラリンピック競技大会	

2001年	1年目	・2月12日：ミニ新年会 参加者24名 ・2月12日：ワークショップ「粘土で造形」視覚障害の方と共に一触覚で表現するー講師・スタッフ3名 参加者13名 ・3月17日：横浜市泉区役所主催「男性ボランティア入門講座」講師：三竹 ・8月27日：「バリアフリーお絵かき教室2001」講師：中畠治子 対象：未就学児・小中学生（障害のあるお子さん優先）参加者24名（こども14名・付き添い17名・スタッフ3名）希望者の作品は、国際児童画展（横浜市青葉区国際交流ラウンジ）主催。テーマはスポーツに出品。 ・2001あおばボランティア・フェスティバルに参加 《会員44名》	・らくらくホンII発売 ・WindowsXP日本語版発売 ・「ISO/IECガイド71」制定	・WHO「国際生活機能分類（ICF）」採択 ・国際ボランティア年 ・老人保健法改正ー法定率1割負担制導入 ・高齢者の居住の安定確保に関する法律 ・高齢社会対策大綱改定 ・省庁再編により厚生省と労働省が厚生労働省となる ・確定給付企業年金法 ・確定拠出年金法 ・社会保険改革大綱 ・育児・介護休業法改正
2002年	2年目	・1月14日：新年会 ・1月27日：横浜市市民活動支援センター「日韓みなとまち市民交流」シンポジウム@横浜国立大学にて、ABS21事例発表：三竹 ・2月11日：東急総合研究所「ネットコミュニティ勉強会 本多氏よりヒアリング ・3月 3日：横浜市社会福祉協議会 研究発表大会にて発表：三竹、藤本 ・8月12日：東京都立大学人文学部社会学科 石川良子氏よりヒアリング 参加者9名 ・9月26日付タウンニュース青葉区版 <駅・映画館などを検証 障害者が歩きやすい街にーABS21・センター南をフィールドワーク> ・10月12日/19日：中里学園生徒のためのバリアフリー入門講習会 受講生6名、参加者延べ48名（引率教員・スタッフのうち、3名は桐蔭学園高校生） ・2002あおばボランティア・フェスティバルに参加 ・10月25日：はまかせ田園都市版第1号<はまかせ探検隊がゆく！安全に楽しむためのインターネット活用術> ・11月22日～25日：釜山市民文化研究会主催シンポジウム「International Workshop on Yokohama-Pusan Network for Making Ecological-Cultural City」@釜山国立大学にて、ABS21活動事例発表：三竹 ・12月6日：横浜市協の障害福祉情報システム構築のためのヒアリング 会員参加者11名 《会員29名》		・「障害者基本計画」「重点施策実施5か年計画」「新障害者プラン」策定 ・ハートビル法 ・身体障害者補助犬法改正ー盲導犬、介助犬、聴導犬 ・ホームレスの自立の支援に関する特別措置法 ・国連「障害者の国際権利条約の提案を検討するための特別委員会」開催 ・ESCAP「アジア太平洋障害者の十年最終年ハイレベル政府間会合」開催（大津市）
2003年	3年目	・1月13日：新年会 参加者26名 ・1月23日：「星を使ったアート教室」講師：高橋美江 参加者11名 ・3月15日：横浜市協働のあじきたシンポジウム 市民と行政で創る“HOT CITY”よこまはバリアフリーカフェ、参加者4名 ・5月24日/6月14日/21日/28日/7月26日（土）：PCサポーター養成講座 講師：山野裕、田所淳他 講師・アシスタント・スタッフ 延べ45名 受講生延べ59名 ・6月14日/21日/7月10日：青葉区委託機能回復訓練としてのリハビリセッション入門講座 講師：矢野睦男、佐久間孝之、看護師・アシスタント・スタッフ 延べ45名 受講生延べ32名		・支援費制度実施 ・健康増進法 ・ESCAP「新アジア太平洋障害者の十年」（2003～2012年） ・アジア太平洋障害者フォーラム（APDF）発足 ・EU「障害者年」 ・次世代育成支援対策推進法 ・少子化社会対策基本法 ・新障害者プラン

		・6月23日：桜美林大学社会福祉科にて講演 講師：栗木、三竹 受講生58名 ・横浜市民活動支援センター主催「夏！市民活動体験塾2003」慶応大学生1名・情報科学専門学校生1名受け入れ ・2003ボランティアフェス外に参加 ・9月4日付神奈川新聞 横浜五版 <ネットで紹介 ハリアフリーマップ利用者増へ冊子化 青葉区のABS21/障害者自ら”現場”取材> ・9月20日：青葉台中学校のネットデイ参加者3名 ・2003年9月号『福祉よこはま』29号 レポートよこはま＜情報技術でつながる・広がるインターネットで街に出かける 街が変わる 青葉ハリアフリーサポート21[ABS21]> ・10月23日：横浜国際福祉専門学校での授業 ハリアフリー・マップ制作指導：栗木、三竹 学生30名 ・10月29日：横浜国際福祉専門学校での授業 ハリアフリー・マップ制作指導：栗木、三竹 学生32名 ・10月23日付タウンニュース青葉区版 <おぼ2003ボランティアフェスタ 誰でもが楽しめるメディアを紹介> ・“ネチケット”を知っていますか？ー11月1日、区役所別館で公開講座ー> ・11月19日：横浜国際福祉専門学校学生3名に対しフィードバック実践指導 参加者5名 ・神奈川新聞 横浜五版「ネットで紹介 ハリアフリーマップ」 ・12月～：青葉区ボランティアネットワークシステム検討委員会委員：三竹、木村茂 ・12月14日：青葉区役所による福祉保健計画に関するヒアリング 参加者10名 《会員55名》			
2004年	4年目				

2005年	5年目	5年目	・1月8日：新年会 参加者26名 ・3月12日：福まち協議会主催「まちあるき」参加者12名 ・4月～活動拠点の移転> ・青葉区視覚障害者協会研修旅行に参加 ・2月17日付タウンニュース青葉区版に、ABS21の活動紹介掲載。 ・8月3日：福まち協議会主催のガイドマップ制作についてのヒアリング 参加者3名 ・10月3日：東京女子大学現代文化学部コミュニケーション学科3年に対し、授業「視覚障害者に対する情報化支援の地域活動」講師：三竹、高畑、後藤 出席者25名 ・12月6日：青葉台駅周辺まちあるき参加 参加者 会員10名、横浜国際福祉専門学校の学生24名参加、その他合計約50名 ・12月10日：PCサポーター養成のためのパソコン入門指導講習会「基本的なマウス操作やウインドウ操作を習得する授業について」講師：佐々木・武田林太郎 共催：慶応大学大岩研究室 受講者14名 《会員58名》	・発達障害者支援法 ・介護保険法改正（予防重視型システムへの転換等） ・障害者自立支援法成立（障害種別にかかわらず一元的にサービスを提供する仕組みの創設等）
2006年	6年目	6年目	・3月4日（土）：「パソコン入門指導講習会第2弾」武田林太郎氏 共催：慶応大学大岩研究室 受講者17名 ・3月11日：青葉台福祉のまちづくり協議会主催福祉のまちづくりイベントへの参加 点字ブロック体験、音声案内誘導システムテスト、マップ頒布、バリアフリーコンサートなど 参加者19名 ・4月18日：日本ユニシス 電動車椅子やシニアカー利用者のための充電サービスによるバリアフリー環境（ハード面）の整備についてヒアリング：三竹 ・7月1日/22日：「横浜市福祉のまちづくり推進指針」見直しのための市民意見交換会：三竹 ・7月20日付タウンニュース青葉区版（木）号に、インターネットサロンが紹介 ・9月7日（木）付タウンニュース青葉区版、マップフィードバックの様子が掲載 ・10月9日：横浜ジェントルタウン倶楽部主催フォーラム『触る地図』を考える パネリスト：後藤、三竹 《会員73名》	・JR東日本、モバイルSuica開始 ・バリアフリー新法
2007年	7年目	7年目	・1月14日：新年会 参加者34名 ・2月22日：福まち協議会主催青葉台地区まち歩き 参加者4名 ・3月10日：福まち協議会主催福祉の日 バリアフリーコンサート@青葉台東急前に参加 参加者11名 ・8月12日：生活習慣病（メタボリックシンドローム）の予防とリスクの改善について 講師：長宗キミヨ 参加者18名 ・8月29日：第1回バス・バイク横浜港クルーズとピエール工場見学 参加者 31名 ・10月13日：歯科衛生講習会 講師：岩岡廣美 参加者11名 《会員 57名》	・CUD（カラーユニバーサルデザイン認証） ・Windows Vista発売

2008年	8年目	8年目	・1月12日：新年会 参加者40名 ・3月9日：青葉区協働による地域力アップ事業「出前ふれあい」の会事業「プレゼン」：後藤、三竹 ・3月15日：第2回バスハイク マザー牧場 参加者37名 ・8月2日：第3回バスハイク 横浜市防災センター見学 参加者28名 ・8月16日：料理教室：片手で作る日常的な献立の工夫@アートフォーラムあざみ野「生活工房」講師：長宗キミヨ、嶋田房野 参加者16名 ・10月11日：個人情報保護法や情報開示や非開示に伴うさまざまな問題について、特に障がいのある方々の事例について勉強会 講師：関和子（株式会社コミュニケーション代表取締役・情報支援コンサルタント）参加者17名 ・10月16日：横浜市都市整備局 第4回横浜・人・まち・デザイン賞「地域まちづくり部門」1次選考（応募要件による審査）通過 ・11月8日：口腔ケア勉強会 講師：岩岡廣美 参加者11名 《会員57名》		
2009年	9年目	9年目	・1月10日：新年会 参加者42名 ・3月6日：バスハイク 春の房総 お食事会 参加者21名 ・6月27日：朗読会 朗読：杉村美子 参加者18名 ・10月20日：バスハイク 声の湖畔散策とバーベキュー 参加者23名 《会員67名》		
2010年	10年目	10年目	・1月9日：新年会 参加者38名 ・2月13日：カレーを作って食べる会@ビオラ市ヶ尾 ・3月13日：十周年記念の集い		

ひとことメッセージ

●「障害者教育支援モデル」としてのABS21の活動 荒関 仁志

ABS21を見学すると、まず驚かされるのは、そのにぎやかさ、その親しみやすい雰囲気です。このような「障害者支援モデル」は理想的ですが、それを実現するにはお互いの信頼関係が十分に確立されている必要があります。かつ支援が継続して行われることが重要な条件となります。ですから、多くの場合短期的な成功はあっても、ABS21のように10年もの長期に渡り、このような「相互の支援スタイル」が定着し、何の違和感もなく、自然に教育の場(雰囲気)が醸し出されるのは、それを支えているABS21の世話役やサポーターの皆さんの努力もさることながら、各人が障害を持たれている方への支援の在り方を十分に理解している結果であると感じました。このような理想に近い教育支援環境は、今後多く障害者支援団体でも取り入れるべきだと思います。

最後になりましたが、今後もABS21の活動が今までと変わりにくく継続され、多くの障害を持つ人たちの支えになることを陰ながら応援しています。(日本大学大学院総合社会情報研究科准教授)

●ウッチャンから落書き的「感謝の詞」 内田 知

バリアフリーと言う言葉は、いつから使われるようになったんだろう。そして、この言葉が生まれる前の時代、バリアフリーに変わる言葉はあったのだろうか。きっとあったのだろう。だが、ウッチャンには、その言葉は必要なかった。五体満足で自分勝手に生きていた時代だった。

今、白杖と人の優しさに支えられ生きている我が身の不自由さが作り出すバリアー。世間の不理解が作ったバリアー。そんな中で生きている。乗り越えなければならない、壊さなければならないバリアーがある事を知る。そして、バリアーを作らない未来にするために、努力している人達を知る。

ここ青葉に、その人達はいた。世間の差別や偏見の中、きびしくも優しい眼で、明日を見据えた活動をする人達がいた。10年にも及ぶ活動。何かと戦い、悩み苦悩した日々があったに違いない。この人達に、ウッチャンが勝手気ままに生きていた時代に、出会っていたら活動に参加していただろうか。心動かされても、身体は動かす事はできただろうか。五体満足のウッチャンであれば、逃げ出していただろう。そう思うほど厳しい日々。継続は力なりとは、簡単には言えない10年だったに違いない。

そんな10年の中に、自分の「落書き的体験」が多少なりともABS21の活動の役に立てた日々があった事。ウッチャンにとって、それは大きな喜びであり、小さな誇りである。近くて遠い横須賀から、横浜青葉の地に今日までの10年へ、ありきたりの言葉だが、感謝をこめて、ありがとうと叫びたい。

今日から明日へ。夢を希望へ。希望を現実へ。横浜は青葉の地は、人の優しさが、風のように流れる街だと、きっと言われるようになるだろう。ウッチャンは、そう信じたい。なぜなら、青葉バリアフリーサポート21が生まれた街だから・・・。(ふれあいML参加者)

●青葉バリアフリーサポート21設立10周年を祝して 岡崎 智美

この度、青葉バリアフリーサポート21(以下、ABS21と略します)が設立より10周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。ABS21は、PCが普及し始めたばかりの頃からインターネットの有効性に着目し、それを生かしたバリアフリーの新しい関係性をつくってこられました。バリアフリーマップや、講演会、施設見学レポートなど、ホームページでの丁寧な記事を拝見いたしますと、皆様が力を合わせて取り組んでこられた様子が伺えます。何よりそのレポート一つひとつにあなたかな配慮が伺えますのは、障がいのある方もない方もこの活動に参画し、当事者としての目から必要なことをきめ細やかに実現してこられた背景があるからこそだと思います。

当館は、横浜市青葉区の住宅街に位置し、男女共同参画センターとの複合施設内にある公共の美術施設です。これ迄に、障がいのある人の作品を紹介する展覧会や、障がいのある子どもも安心して参加できる造形スペースの運営、視覚に障がいがある人もない人も参加するワークショップや鑑賞会、障がいがある人が行きたいと思う美術館を共に考えるワークショップなど、様々な取り組みを行ってまいりました。

初めてABS21にご連絡させていただいたのは、2008年春、駅から当館までの道のりを検証する「バリアフリー検証会」を開催した折でした。この会の成果として、蓋のない下水道に蓋が付き、途中で途切れていた点字ブロックが施設前まで延長されるなど、予想以上に早い問題解決につなげることができました。ABS21会員の方々のご協力に改めまして心よりお礼申し上げます。

一般的に展覧会や講座、コンサートなど、障がいがある方たちにとってのサービスは行き届きにくくなります。ABS21の皆様には今後も様々な場面でご活躍いただき、障がいのあるなしに関係なく、様々な人々が芸術文化を享受し、日々の生活を豊かに暮らせる社会の実現に向けて取り組みを続けていただきたいと願っております。私どもも微力ながら励んでまいりたいと思います。(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野 職員)

● 楠木 克芳

私が青葉区社協に勤務していた1999年、「ボランティアの講座があるなら、障がいのある人たちの研修をもっとやっていこう!」と当事者研修実行委員会が立ち上がり、コミュニケーションセミナーと自立生活セミナーを企画・運営してくれました。

その実行委員の人と障がい者が、インターネットのコミュニケーションに強くバリアフリー感を持ち、発起人わずか3人だったと思うのですが、ABS21を2000年1月に立ち上げたと思います。それから代表の持つネットワークとインターネットで人脈はあれよあれよと広がり、「3年はかかるよ」と私は言っていたのに、8ヶ月たった9月にはホームページ「あおばバリアフリーサロン」を立ち上げてしまいました。

当時かわっていた私が感心したのは、出来上がるものがバリアフリーなのはもちろんですが、マップづくりも当事者のペースに合わせ、その作り上げる過程がまさに、バリアフリーだったことです。そして、移動が困難な人がその場所に行かなくても、ITなどを活用して一緒に汗を流せる魅力。

これからも当事者が自分自身の生活を広げていく作業に、多くの人たちと一緒に汗を流せる活動を続けていけることを期待しています。(港北区社会福祉協議会)

● 10周年によせて 北神 あきら

ABS21さんが創立10周年を迎えられたことに対し、心からのお祝いを申し上げます。実は私どもSPANも昨年11月に10周年となりました。ということは、ABS21さんとSPANは同い年ということになりますね。

「10年」という時間は、生まれた赤ちゃんが小学校4年生になるわけで、ABS21さんにとって、その間にはさまざまな成長の過程があったのではないのでしょうか。そして、そこにはメンバーのみなさんの情熱と努力の記録が刻まれていることでしょう。

ABS21さんは、地域に根差した素晴らしい活動をなさっており、その功績は大きいと思います。次は、成人になる20年を目指して一緒に歩んでいきましょう。(特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク(SPAN))

● 小玉 悦子

だいぶ目が難くて不便ながら、私よりお若い三宮麻由子さんの講演を聞いてからはそのときの話を参考に励みに生きています。

だいぶ あのやな メールのやり取りは つらかったです。(ふれあいMLのこと)だいぶわすれましたけど。兼折さんや 都筑・王子さんとかメール届きますか。

千葉県は菜の花 体操を 教えてください 伊豆のへんや 串本のダイバーの話でクリスマスショーもあって 海の中にポストがある話も楽しかったし 物知りになりました。(ふれあいML参加者、小田原在住)

●酒井 利佳子

ABS21の皆様、10周年おめでとうございます。私がABS21を初めて訪問したのは2006年ですので、あれから、もう4年が経ってしまったんですね。

ABS21訪問のきっかけは米国で毎年開催されるCSUNという国際会議でABS21の三竹さんとお会いしたことでした。CSUNという会議では重度の障がいを持つ方々が、PCなどの情報機器を使いこなし、健常者に混じって、ごくあたりまえに新製品のデモや研究発表を行っていました。

私の仕事は工業製品のデザインですが、この光景を見たことがきっかけで自分が担当する製品はできるだけ多くの人が使えようになりたいと考えるようになりました。幸運にも今の日本では様々な情報機器が手に入ります。これらの多くははじめは誰もが使えるものではないかもしれませんが。しかしメーカーの努力やのようなボランティアの人々のサポート、そしてユーザの方々が発信する声やアイデアによって、少しずつ、より多くの人が使えようにしていくことが可能です。

これからの10年、みなさんの毎日をより豊かにする製品づくりを目指して日々努力を重ねて参りたいと考えておりますので、製品に対するご意見、ご感想などいただけますと大変励みになります。ABS21のサポートのもと、皆様がパソコンや情報機器をつかいこなし今後も様々な分野にてご活躍されることを期待しております。(キヤノン(株)総合デザインセンター)

●「講演デビューの日」 白水 繁彦

それは今からちょうど10年前、わたしが武蔵大学で2000年度の「総合特講」という授業を担当していたときの話です。わたしはこの授業のコーディネーターとして、社会のなかで「人知れず」重要な仕事をしている人ばかりを講師としてお招きしました。すなわちマジョリティのためではない、どちらかといえばマイノリティのための仕事をされているかたのお話を伺い、学生に社会のリアリティの一端を感じてもらいたい、というのが私のもくろみでした。

数ある講演のなかでも圧巻はABS21を立ち上げて間もない三竹さんと木庭袋さんによる「インターネットとボランティア」というテーマでの講演でした。学生たちが車椅子の木庭袋さんを校門から教室へお連れし、さらに壇上へ上げ、それからお話を聴く。お二人にとって大学での講演は初めてだし、決してまとまりのある話ではなかったのですが、なにしろ当事者による生の事例報告です。学生たちに大きな感銘を残しました。

思うに、学生たちにとって、校内で車椅子を押している時点から「授業」が始っていたのです。実践があって理論がある。私も大きな収穫を得た一日でした。(駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部教授)

●歩み続けて10年！ これからも・・・ 曾田 秀樹

障がいを持つ者達に サポートし続けて、10年と言う節目の時、会長他 サポーターの皆様、本当にありがとうございます、そして ご苦労様です。

障がいの種別に関わらず、適切な指導、相談事の相手、色んな方々の講演、そして、年に2度のバスハイク、そうそう これも忘れてはいけません、管理されているパソコンのメンテナンス、HPの更新作業と、数え上げたらキリが無いのかも知れませんが、月に2度のサロン時間の中では、会員のニーズに答えた御指導！ イヤア、この時間が一番大切なのかも！ 心温まるティータイム！ 何事にも委員会を設け、会員の声を繁荣させる準備、伊達に10年を迎えてはいない。

私たちは、このサロンに参加することで、社会との共生に参加できることの大きな喜びを感じずにはおられません。

福祉施策の衰退を感じる中、ABS21の「自然な」障がい者とサポーターの関係をこれからも見せ続けて下さい。(都筑区視覚障害者 バリアフリーライフ協会会長)

●「ABS21の活動に参加させていただいて」 新田 克己

ABS21が活動10周年を迎えられるとのこと、おめでとうございます。私がABS21の会合に参加させていただいたのは5年前ごろでした。当時、私は福祉工学や都市工学の先生方と、車椅子での移動の支援機能の開発の共同研究をしていました。その研究を進めるため、ABS21の会合で研究の状況を説明させていただいたところ、非常に率直で厳しいご意見や、研究を進める上での肌理の細かな助言をいただき、大いに刺激を受けたことを思い出します。その後、ABS21の定例の会合で福祉機器の勉強や、青葉台駅周辺のバリアフリー情報の調査へ参加させていただき、研究以外の面でも充実した体験をさせていただきました。

これらの経験で印象深かったことは、ABS21のスタッフの方々や参加されている方々が熱意を持って活動なさっていることです。この熱意があれば、これからの10年もますますABS21が発展されることと確信しています。(東京工業大学大学院教授)

●服部 哲 10周年おめでとうございます！

一度だけの訪問で感想や期待を述べるのは恐縮ですが、メンバーのみなさまがとても良い雰囲気でもとても楽しそうに活動されていたことが印象的でした。外部のぼくが訪問したときも、誰もが気軽に話をしてくれて、とてもうれしかったです。また、中心メンバーのみなさまも他のメンバーの思いを大切に、グループをうまくナビゲートしているように感じました。

目の不自由な方も数多く参加しているそうなので、そういった方々の貴重な体験も積極的に取り入れて、今後も地域や社会に貢献されることを期待しています。(神奈川工科大学助教)

*注)2007年、ヒアリング結果をもとに論文をまとめられ、情報化支援活動の現状や意義を学会等で発表してくださいました。

●10周年のお祝い 平賀 一樹

青葉バリアフリーサポート21(以下、ABS21)の10周年記念おめでとうございます。ドコモがユニバーサルデザインに取り組むきっかけとなったのは、2003年に導入した障がいを持っている人向けの割引サービス「ハーティ割引」の導入でした。当時、誰もが障がいを持っている人達のことを知っているわけではなく、まさに関係者一同は手探り状態でした。

そのような状況の中で、私は、料金を安くすればよいというものでなく、らくらくホンのような商品・音声入力などサービス、バリアフリーの店舗、教育された店員によるお客様対応など一貫してお客様に価値を提供し、その結果料金割引につなげながらお客様からの支持される企業になりえると考えていました。

私は、2003年より社会環境室という部署で働いていたためユニバーサルデザインの商品やサービス開発をやりやすくするため、2004年企業の社会的責任(CSR:Consumer Social Responsibility)の理念を策定し、企業として取り組みを強化することを経営層や社内に知ってもらうことにしました。

理念を策定するにあたっては、ユニバーサルデザインについて知ることでした。色々な団体を探しているうちにABS21に行きつき、ヒアリング対象とさせていただきました。

- ① 障がいを持っている方、高齢者等への教育等を通じて自立支援を行う
- ② インターネットや携帯電話など先進的な支援ツールを活用している
- ③ 企業等との協業により活動を行う

これら3つの特徴の視点から見たヒアリングを障がいのある方を含む5名にさせていただき、特に代表である三竹様からは的確なご意見・要望等をいただきドコモのCSR理念の参考させていただきました。ドコモのCSRの理念は表現こそ変わったものの、ABS21からいただいたご意見などは今でも引き継がれております。

今後とも、クオリティ・オブ・ライフの実現のためにABS21の活動を続けていただければと思います。(NTTドコモ)

●祝辞 南村 千里

青葉バリアフリーサポート21、10周年誠にありがとうございます。

発起人であり、運営委員の一人である三竹さんに、はじめてお会いしたのは、2002年6月に行われた、東京大学先端科学技術研究センターバリアフリー部門主催のシンポジウムでした。あれから私が仕事のために渡英したこともあり、対面の再会がなかなか叶わず、メールでのやりとりのみでした。

そして、7年後の2009年11月の里帰りのときにさせていただいた青葉バリアフリーサポート21での講演で、三竹さんに再会しました。昔と変わらず、生き生きしておられたのが印象的でした。そして講演にいらしてくださった青葉バリアフリーサポート21の方々の対応の仕方、関わり方がユーモアを含め、とても温かく、強く伝わってきたのを今でも覚えています。そこには、年齢、障害、性別などの個々の違いを受容し、お互いを尊重する、そして今まで培ってきた10年の年月の積み重ねが感じられました。

このときに、障害者対象の青葉区のマップを制作する活動をしているが、いつの間にか店が閉まったり、新しい建物が建ったりするから、その変更制作で忙しいとか、コンピューターを通して人々の新しい関わりを立ち上げたりしているなど、様々な活動状況を伺うことができました。

社会の中で生きる私たちは、各々の立場に応じて役割が定められています。静かな発信ながらも、地域に根ざした活動が、私たちの意識や習性、そして生活を変えていきます。振り返れば、昔に比べて、街中で手話で語る人や車椅子を活用して買い物をする人々などを、日常生活の一部として受け入れている私たちがいることに気がきます。今後も変化していくことでしょう。

この10周年を契機とし、更に一段のご飛躍を遂げられることをお祈りいたしております。(2009年度バリアフリー講演会 講師)

●安村 通晃

青葉バリアフリーサポート21が、この度10周年を迎えられたとのこと、心よりお喜びを申し上げます。

バリアフリー活動は、米国での先例を引くまでもなく、地域に根ざし地域と一体となった活動こそ望ましいものと考えます。まさにこのような活動を実践的に繰り広げられてきたABS21の皆さんに心よりの敬意を表します。会員仲間同士の支え合い、励まし合い、知恵と元気を提供し合った活動はまさに全国の同じような活動のお手本となってきたことでしょう。

今後、さらなるITの発展やバリアフリーの実践的方法論の発達もあるでしょう。これらを踏まえた上で、こころとからだ、さらにはネットワークを含め、三位一体となった活動を今後も全国の先端を切って継続・発展されますよう、心よりお祈り申し上げます。(慶應義塾大学環境情報学部 教授、アクセス研究会代表)

*注)2000年3月にHP制作について、安村教授にご相談したところ、学生に声をかけていただき、当時1年の男子と3年の女子学生が参加してくれました。彼らは、HP制作会議に出席し、最初の枠組みを作ってくださいました。慶応大学のサイトをお借りして、6月から試行運用を始め、9月から公開しました。

会員から

● 青柴 尚子 ABS21の10周年、おめでとうございます。

2000年の夏に青葉区社会福祉協議会のチラシを見つけてPC講習会を受けました。が、しかし、私は、PCの世界は、無縁でした。講習会が終る時にABS21というPCサークルがあると、知りました。メンバーの方が、私のように物覚えの悪い者でも、メンバーの方が丁寧に教えて下さいます。10年たっても、PCの技術は、まだまだですが、これからも、よろしくお願いします。(ABS21ふれあいの会担当運営委員)

● 安部 勝好 ABS21 10周年おめでとうございます。

私がABS21の活動にはじめて参加したのは2002年頃だったと思います。当時からすでにインターネットサロン、バリアフリーマップ、講演会を中心に活動してきたと思いますが、試行錯誤の段階から徐々に内容も充実してきたと思います。メンバーはそれなりに変動しているのですが、活動が継続できているのは、気負わずにやっていることと、ABS21の会員は参加者であり企画者であるというところかなあ、と感じています。

役員の誘導がうまいのか、会員になると単なる参加者ではいられず、なんとなく何かの企画メンバーに加わることになってしまいます。企画側の苦勞がわかると他の企画に参加するときも企画する人の気持ちもわかるし、楽しさの敷居が下がって、結果として多くの活動が楽しめることにつながるのではないのでしょうか。

ABS21に参加してからこのこれまでを振り返り、そんなことを思いました。

私個人は、しばらく活動を休んでいますが、いずれまた活動のお手伝いがしたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

ABS21の活動が充実するようにお祈りします。(PCグループ担当運営委員)

● 入江 恭生

私がABS21との関わりを持ったのは、2001年10月から、青葉視覚障害者福祉協会でパソコン教室のインストラクターをしていた時です。ABS21の方がPC機器の設定などの援助をしてくれました。

私も視覚障害者になったばかりでしたが、システム関係の仕事をしていたこともありサロンで視覚障害者の音声でのパソコン利用のお手伝いが出来ればと考え、2002年8月に入会しました。以来、月2回のサロンには出来る限り出席、また微力ですが、運営委員としての活動に勤しんで参りましたが、もう8年がたちました。その間、個性豊かな方々との交流ができ、楽しく充実した日々となりました。

これからのABS21の方向として、サロンでの視覚障害者のサポート体制の強化や生活の知恵などの講習会、及び親睦や交流会的な活動の拡大が出来れば、そしてもう少し活動する会員が増えれば、ABS21も更なる活性化が期待できるでしょう。(インターネットサロン視覚障害者サポート担当運営委員)

●abs21に思う(10周年記念) 王子 全主

もう10年になるんですね。私がこのabs21の活動に関わった経緯は「緑区オンライン学級」のメンバーなどが中心になった神奈川情報ボランティアというメーリングリスト、年一回の総会で三竹さんにお会いしたのがきっかけです。当時身体障害者福祉にICTを使って支援が出来ないかと活動をはじめていたプロップステーション、東京コロニーなど注目されていたところもありましたが、ここは仕事の出来る身体障害者養成講座のようなことをやっていました。そんな中、練馬区の方で「福祉パソコンの会」というグループと関わりをもっていました。身体障害者が主役、代表者、役員なども障害者。またITの習得が目的ではなく、コミュニケーションが先にとった活動が中心でした。そんな経験もあってabs21の活動に参加しました。

このグループのホームページの管理、メーリングリストの管理などを5年位？やっていましたが、次に引き受けてくれる人たちも出てきましたので最近ではご無沙汰気味です。abs21の良いところは身体障害者が主役、健常者はあくまで裏で支えること。これからも継続して行って欲しいと思います。10年間、特に立ち上げ当初の頃はいろいろ問題がありましたが、こんな経験はなかなか出来ないこと。次に繋げるチャンスを一杯得られたと思います。残念ながらメーリングリストを停止していますが、復活できると良いですね。今後の益々の発展を祈っています。(ウェブ管理人・運営委員)

● 大西 明宏

ABS21の10周年、本当におめでとうございます。以前、バリアフリーマップ活動に参加しましたが、街の中にある普段は気付きにくいことが山ほど出てきたのは、参加型活動が実を結んでいる何よりの成果であり、その成果発信の手段としてのホームページ作成活動とリンクしていることに感心させられました。

また、当時非常勤講師をしていた大学に三竹さんと栗木さんをお招きして講演していただいたことも印象深い出来事です。お二人の熱のこもったお話に、学生たちが目を見開いて聞き入っていた姿は今でも忘れることができません。今は参加していませんが、活動はホームページに遊びに行きたいと思います。

皆さんの益々のご活躍を祈念しています。(元会員)

● 岡島 寛

2000年、パソコンのことは何も知らずにABS21に参加しましたが、まだまだ力量不足だと大いに感じています。多くの人と関わり合いができ、やり取りが出来る事を大きな喜びとしています。

私は未だに未熟だと思っていますが数年来習い続けているのが朗読で、これだけはライフワークとしてやっていこうと思っています。近代文学館、横浜美術館等で発表会を行ってきましたが将来は小さくてもいいので、色んな所で色んな人に朗読を聞いてもらえればと思っています。(ABS21ふれあいの会担当運営委員)

● 楠木 孝昭

ABS21の10周年、おめでとうございます。当初数年は監事を仰せつかり、それまで経験がなかった障がい者の支援活動について勉強をさせていただきました。思い出深いのは、ABS21が発足した2000年の11月、「ボランティア国際年シンポジウムin かながわ」で三竹さんと「～障害者の生活情報支援グループ「青葉バリアフリーサポート21」を事例として～」と題して発表をさせていただいたことです。当時はまだインターネットがあまり普及していなくて、インターネット機能を使って活動を立ち上げた市民グループを紹介し、「市民からNPOへ」活動を伸長するためにインターネットがいかに使えるか、事例を持って共有する、という趣旨での発表に価値がありました。現在のインターネットの普及状況は、隔世の感があります。次の10年も、この10年のインターネットのように、ABS21の活動が広がることを期待しております。(元監事、HOSP!(持続可能なコミュニティを本気で作る大人たちの会)事務局長)

● 木庭袋 純

青葉バリアフリーサポート21 (ABS21)、設立10周年おめでとうございます。

思えば1999年春頃より、三竹氏とメールで企画を練り始め、年末年始も返上で、PCに向かっていました。名称も、「青葉インターネット情報」など二転三転し、やっとABS21に落ち着きました。また、初めてのML開設やOS、ハードウェア修理など、PCスキルアップに奔走していました。私は健常者と身障者の両面を体験し、その経験を生かせればと、ABS21の例会や大学での講演などにも参加させていただきました。突然の入院や諸般の事情で、会を離れることになってしまいましたが、地元での活動は継続しています。

あれから10年、交通機関などバリアフリー化が進み、外出しやすくなり、またITの発達で今や携帯電話やゲーム機でも気軽にネットに接続。TVでも当たり前のごとくURLや検索マークが表示され、もはやネットとともに生活する時代になりました。その一方で操作や環境といった情報格差や、ネットにまつわるトラブルも多くなってきました。青葉区では地域のBBSやFM放送でコミュニケーションが活発になってきましたが、その内容はまだまだ健常者主体で、バリアフリーにはほど遠いのが現状です。

この、今の時代こそABS21が求められていると思います。インターネットだけでなく、青葉区が真のバリアフリーになれるよう、これからの貴会の発展とご活躍を心より願っています。(元会員、発起人)

●ABS21のご発展を祈って 木村 茂

私は退職後、何か地域に密着したことをしたいと思った。そして長浜医院の「健康、医療、環境を考える会」に顔を出し、ここで送迎ボランティア、その後デイサービス等のお手伝いをした。平成7年頃である。

平成10年秋、社協に「福祉110番」が誕生しそのスタッフとなった。この仕事の中で「ABS21」と接触し、パソコンを使うという新しい方法に惹かれて仲間に入れてもらった。

しかし、会計などのお手伝いはしたもののたいしたことは出来なく、最近はお無沙汰をして申し訳ないと思っている。ただ私としては今まであまり知らなかった障がいの方々の実情や、まわりの人々の対応に強い感銘を受けたが、同時にショックを受けたこともある。極端なケースであろうが障がいの方を世間に出すのを渋るような場面にも出会った。その頃に比べれば今は認識が大いに変わっているであろうが、関係する方々のご努力が大きいと思う。

今、「ABS21」誕生10周年を祝福すると共に、パソコンと言う新しいメディアを使ったユニークな存在として今後とも一層の発展をされることを願うばかりである。私自身はまた長浜先生のところで高齢者の住まいに関するお手伝いをしている。(元会計)

●ABS21との出会いと今！ 栗木 正壽

志半ばで脳血管疾患の後遺症で障害者となり、ショックと劣等感で、そんな自分を受け入れられず家に閉じこもりがちの生活をしていた2000年夏、青葉区社会福祉協議会が出した1枚のチラシに載っていたIT講習会に応募した。2日間にわたる講習会の終わりの挨拶で、「21世紀に向かって、障害の有無に拘わらず、誰もが安心して暮らせるまちづくりの活動をしましょう」と、三竹代表に呼びかけられ、その指に止まることになった。この目的を達成するためのバリアフリーマップ制作フィールドワークに参加した。入会したその頃は、車椅子の視点からのバリアフリー志向が強かった。しかし、車椅子にとってはバリアフリーでも、T字杖利用者にはバリアフリーではないケースもあることがわかり、自分とは異なる障害の人たちの不都合なところを理解し合う事が出来た。

「多目的トイレ」を調べていたのだが、ドア開閉時に、室内の照明が自動的に点灯・消灯するシステムだった。点灯するのが遅いので、「入る時に暗くて困るよね？」と視覚障害の方に尋ねた。その方いわく、「私たち見えない者には、暗いも明るいも関係ない」と。「そう言えばそうだな」と納得して、改めてその人の立場で考えることができた。

障害者と一般の人たちの間にまだまだ隔たりがあった発足当初から、バリアフリーマップ制作というやり方で、街のバリアフリー・チェックをしてきて、地元のみな様との出会いを通して理解し合えることを実感している。社会参加への後押しをしてもらっていると思えるようになるにつれ、自分の意識がどんどん前向きに変わってきて、バリアフリーを促進する活動は、世直しにも「通じる」と自信をもつことができるようになってきた。(副代表、バリアフリーマップ制作グループ担当)

●青葉バリアフリーサポート10年間 剣木 成文

10年前に区社協で三竹さんに会ってABS21の会の立ち上げから入会しました。10年間いる間あまり手伝えなかったけど、インターネットとマップを勉強して嬉しかったし、マップを作成する為外に出て調べたり、バスハイクにいろいろ行って、そこのバリアフリーを調べたりとても楽しかったです。少しだけ僕たち障がい者のために役にたったのかなと思いました。

この会をずーと続けてほしいと思っています。これからも宜しくお願いします。(発起人)

●ABS21の10周年 おめでとうございます。 後藤悦子

私は、発足の年の夏にABS21に出会い、10月に入会しました。

当時、青葉区での障害者対応のパソコン教室は珍しく、インターネットサロンはいつも人がいっぱいであふれていたことを覚えています。その一年後くらいに、青視協も社協にパソコンを買っていただき、パソコンクラブを始めました。その頃、障害者対象のアミアミさんとか、パソコン横丁などがスタートしたのではないかと思います。

その頃、視覚障害者に音声対応の指導をしてくださる方が少なかったし、パソコンの出し入れや片付けに時間も人も必要だったので、いつもABS21の矢野睦男様にお願いしていました。いつの間にか、青視協のクラブを解散して、パソコンを習いたい人は、ABS21にお願いするようになりました。

私はいまだにメールのやりとりくらいで 他は何もできないでいますが、仲間たちは、教えていただいたおかげで、今では、ネットサーフィンやホームページ作成などを楽しんでいます。

バリアフリーマップ作りの街歩きをして、知らないお店や街の成り立ちや危険な道路の場所などを覚えることができ、とっても勉強になります。また、バスハイクも楽しみの一つで、仲間たちと交流しながら、野外で社会勉強をしています。

最近、インターネットサロンのお茶タイムが楽しみです。皆様とにぎやかにおしゃべりをして、いやなこと忘れ、心洗われるサロンは、私にとってオアシスです。良い仲間たちとのおしゃべりを長年にわたって続けられたのも、教えて下さるボランティアの皆様と誰にでも優しい三竹さんのおかげです。三竹さんのABS21を立ち上げた勇氣 発足当初の困難を乗り越えた忍耐力、そして、常に勉強しながら努力していらっしゃることに、頭が下がります。

何かと気を配ってお世話してくださるスタッフの皆様にも恵まれて、ほんとうにありがたく思っています。家庭的な温かさがあるABS21を、元気で頑張っていていつまでも続けてくださいますようこころから願っています。(運営委員、青葉区視覚障害者福祉協会会長)

● 小山 恭男

10周年おめでとうございます。設立当初の会員であり、退職後あまり外出していなかった車椅子の私にとって、バリアフリーマップ制作フィールドワークが外出機会となり、仲間たちと一緒に街あるきすることは、とても楽しみだった。その後、センター北・南にバリアフリーの大型商業施設ができ、車ででかけ一人で楽しく外出できるようになった。ABS21のフィールドワークでは、障がいの無い人には気づかない段差や間口の広さなどの視点に注目させる機会になり有意義だったと思う。視覚障がいの人には健脚が多いので、車椅子につかまってもらって一緒に活動したのも楽しい思い出である。

視覚障害者に地図の全容を示すことは無理なので、ウェブに掲載する際には、音声読み上げソフトを利用する人たちが聞いてよくわかるような表現を工夫する必要があると思う。(元監事、青葉区身体障害児・者団体連合会会長)

●柴谷 知宏

ABS21が地域の社会福祉においてIT化の先鞭を付けられたことは評価されるべき功績だと思います。これからの10年間はITの社会福祉化にぜひ取り組んでください。ITはまだまだバリアフリーとは言い難い状況です。これを地域連携で少しずつ良くしていける力がABS21にはあると思います。期待しておりますのでがんばってください。(ふれあいML管理人)

●10周年を迎えて 嶋田 房野

スタッフの皆様にお世話になりましてありがとうございます。もう、3年位になるでしょうか。先輩会員の方に誘って頂きパソコンにふれる機会を与えて頂きました。覚えが悪くて忘れっぽくて、なかなか前に進まなくてサポーターの方々には、大変申し訳なく思っています。今年こそはもう少し頑張ります。

最近では料理、バスハイク、講演、落語、読み聞かせ等など、楽しい事も増えて、おしゃべり、お茶、おやつ等で、土曜日の午後のひとときを、過ごさせて頂き幸せを感じています。

今年は、どんな事に、出会えるかな？楽しみにしています。

主人共々宜しく願いいたします。

●ユニバーサルなサロンで3年 ヒゲ坊こと曾田 秀樹

「もう 3年過ぎたのかなあ！」ちょっと 当時を思い出しました。ハローワークの短期講座で初めて触ったパソコン、その教室も3ヶ月で終了。やっとメールができるかどうかでした。一緒に学んだ友人に「青葉区にはこんなサロンもあるよ」と、紹介されたのがABS21のパソコンサロンだったのです。色んな先生方もいらっしゃいますが、生徒も色々なんです。なんせ、個々にやってる事がばらばらなんですよ！そりゃあ、統一講座も多々あるにはあるのですが、文字通り「自由」を絵に描いたみたいなサロンなんですよ！

私はパソコンと言うツールに偶然に出会い、ひきこもりから抜け出し、言わば「第2の人生」の中にいるつもりです。視覚を失ってしまった事も忘れ、今できる事を今やっておこう。パソコンのサポートだけでなく、次々に出会う人から影響を受けながら…。

私が人生の幕を下ろすときに 素晴らしき思い出のページを彩る人たちと共に！

●私とABS21 中鉢 征紀

私たち障害者は、ABS21にうんと大きな大恩を感じます！この世で『絶対必要』な世界一の立派な団体です。なぜならば、私は、自分のホームページを持つことができ、日本全国の人たちに見ていただくことができ、感謝しています。ほんとうにABS21は大事な活動をしてくれて、嬉しいです。ありがとうございます！！！！(中国戦地一戦死者・盲人障害遺児)

●ツネ蔵 ♪

ABS21は居心地がいいです。その時々自分の事情により、出かけてみたり休んでみたりしながらも、会費を納めここに籍を置き続けているのは、その居心地の良さからだと思います。ここでは、ほかの人が自分とは違う目的や違う興味を持ち、各々が違うことをやっているということ、誰もが特に意識しないくらいにあたり前に思っ認め合っています。そうでありながら、みんなで何かをしているという緩やかなまとまりや所属意識があります。勿論、これは親身になって教えてくださる先生方のお力の上に成り立っているものですが…。

だからここでは自分のペースを守れるし、疑問を口にしやすい、素直に教を乞いやすく、発想が大切にされやすいのだと思います。これからも、こういう自由で柔軟な集団であり続けてほしいと願っています。

●10周年に寄せて 鶴巻 繁

10周年おめでとうございます。私がABS21にかかわらせていただいたのは、2003年春からだったと思います。あれから6年、青葉区にしっかり根づいて、地道な活動を続けておられることに敬意を表します。特に称えられるべきは、障害者と健常者が対等の立場で会を形成し、バリアフリーマップ作成、インターネットサロンやバスハイク等の事業に励んでおられることです。皆さんごく自然に手を取り合い、助け合い、会務を担っておられる姿は、まちのユニバーサルデザイン化とノーマライゼーションを渴望している私たち障害者にとって、たどり着くべき社会の姿そのものであると思います。

今後さらに、会則第3条の(目的)の実現に向けて、末永く活動していかれることを期待しています。(横浜市視覚障害者福祉協会会長)

*注)会則(目的) 第3条 本会は横浜市青葉区およびその周辺地域が、障害がある人もない人も、安心して暮らせるように、お互いに個性を尊重し、不足を補い支え合っていくことによって、こころのバリアフリーの街づくりを実現していくことを目指している。そのために、コミュニケーション手段としてのパソコンやITの積極的な活用により、障害のあるひとたちの自立と社会参加を促進する活動を展開していくことを目的とする。

● 長宗キミヨ

平成20年に第2回料理教室で、作って食べて楽しんで以来、今年はイベントと重なり折り合いがつかず、料理教室を開くことが出来ませんでした。

しかし、サロン、マップと皆様と活動が出来、沢山の思い出と出会いをいただきました。食と健康は、一生に関わることですの、来年度は皆さまが参加できる料理教室や、食事の献立、栄養のバランスなどなど、食に関する会を実現できたらと願っております。(運営委員、「卵の黄身よ」代表)

● 松浦 日出夫

10周年おめでとうございます。私がABS21のサロンに数回ほど参加して、5周年の時に正式会員となりました。月日は早いものですね。以来、サポーターの方々にいろいろ教えて頂き感謝しております。ありがとうございました。

バスハイクや講演会などに参加させていただき勉強になり励みとなりました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

●勇気をだして社会と交わる勇気を！ 三井 義輝

ABS21が、10周年のこと。おめでとうございます。私も、講演、バスハイクなどに参加させて頂き、多くのハンデを持つ方々と接し、交流し、勉強し、私なりに人間形成に励む契機とさせて頂きました。ありがとうございます。

昨年、町会、社協の会員にもなり、広報誌などに原稿を掲載させて頂いたり、役員さんと交流させて頂くようにしています。町会、民生委員さん達は、大地震などのときは、ドアを壊しても安否を確かめ、リヤカーで避難をさせると言ってくれています。ありがたいことです。

勇気をだして社会と交わる勇気。このことも、ABS21での教訓だと、感謝しています。ABS21は、全盲の闇に、一つの光明を与えてくれました。そう、寒い冬の中に、咲く梅の花のようです。

「梅一輪一輪ほどの 暖かさ」。

今後の活動をつうじ、花を一輪ずつ増やして頂くことを、ご期待申し上げます。

● 矢野 明

ABS21の10周年おめでとうございます。定年前のご奉公で海外赴任から帰国し、IT化支援に関心が強かった私は、三竹代表と同窓という縁もあって、発足当初から、HPやバリアフリー・マップ制作活動に、参加しました。

その後、鶴見区のITサポート団体の立ち上げに参加し、地元の活動にシフトしていましたが、この領域の先鞭をつけ、モデルとなったABS21が10周年にわたり意義ある活動を継続していることに、感慨深いものがあります。

私自身は、数年前に身体障害者となり、認知症もひどくなってきていますが、このような人たちの地域での社会参加を応援するABS21が今後も、様々な創意工夫で発展を続けるよう祈っています。(元バリアフリーマップ制作グループ・リーダー)

● 山野 裕

ABS21十周年おめでとうございます。継続して地域の障害者のサポートをされているのは大変素晴らしいことですね。

私がABS21に関わったのは2003年頃中心のほんの一時期でした。その少し前から全国視覚障害者インターネット接続支援連絡会(略称ASV)の会員として、視覚障害者がWindowsパソコンを音声読み上げソフトを使用してキーボードで操作するのを手伝っていました。ABS21ではインターネットサロンでお手伝いしたり、サポーター要請講座の講師を務めたりしました。音声読み上げソフトは特殊なので勉強しながら手伝っていたのを思い出します。その後忙しくなり、会員は継続していましたがほとんど活動に参加できなく、ただメーリングリストで皆さんの活発な活動を読んで感心するだけの会員でした。

今後のご盛会を祈念します。

● 渡邊栄造

10周年おめでとうございます。早いものですね。永い間大変お世話になりました。お陰さまでPCを楽しみながら過ごさせていただいた横浜での暮らしでした。

ここ有料介護施設に来て丁度1年が過ぎました。去年は老々介護の一年でしたが意を決して施設に移り落ちついた日々を送れるようになりました。

これからも一日一日を大事にしてすごしていこうと思います。テレビで見た顔を描いてみましたので添付します。

● わたり

私は、今年の8月にABS21のインターネットサロンに参加しました。そのとき緊張していた私を、優しく受け入れてくださった皆さんのことをよく覚えています。そして、もっと色々な障害についてのことを学び、考えたいと思いました。また自信をもって生活している皆さんとお話するのはとても楽しかったです。

それから3ヶ月間、皆さんの投稿するメールを読ませていただき、行動範囲が広いことにとても驚きました。私ももっといろんなところいき、いろんな本をよみ、自分の意見をしっかり言えるようになりたいです。また、皆さんのように自信を持って生活したいとおもうようになりました。

3ヶ月間という短い間でしたがありがとうございました。(2009年ボランティア体験実習生)

●「10年後のABS21を考えるワークショップ・メモ」

10年後のABS21 オレガシゴウチ・オカジマ
ナカムラ・ミキ クリキ・ヤマナカ
アツガ1・アツガ2

HP

- 海外進出 (Net会員国際化) 
- 小さな会 発表会 (小説朗読)
- 地域内の小さな集まり (奈良支部) での活動
- ABS モービー (マスコット) を造る 
- ネーミング変更 ロゴマーク (プラスチックイメージをなくす) 
- エビスの会 (え)

常に最新パソコンで (新しい技術に触れたい)

ケータイで代行  モバイルツール

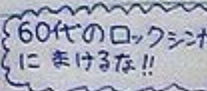
料理情報コーナー(Web)新設

- レシピ・カロリーコントロール
- お店情報 (健康的ヘルシーメニュー)

両方紹介
○ ヘルシーメニュー
× 不健康メニュー

インターネットカフェ経営 (ヘルシーメニューでおもてなし)
(栄養相談 & PC相談)

若者を呼ぶ (ギター等音楽)

音楽会 (会員によるコンサート・カラオケ)  60代のロックシンガーにまけるな!!

地域の名医情報を知りたい  (パソコンでやりたい)

おわりに

ABS21の対面活動空間である横浜市青葉区周辺は、IT環境と経済基盤の下支えがある地域として知られています。所有関心だけでなく、生き甲斐や自己実現などの存在(生きる意味)関心によって、人と交わることを有意義に思う人たちが多いようです。当会は、志を同じくするメンバーを中心に、「共生の街づくり」を掲げ、通奏低音としての公共性 *1 を基盤として、身内以外の第三者への旺盛なケア精神で、公共空間での共生を築く試みの一端を担ってまいりました。この10年間、試行錯誤しながら、「公共哲学 *2 」を実践してきたともいえましょう。

①人間存在の原点ともいえる、利他行為としてのケアは、見守るなかに喜びを感じ、自己実現だけでなく「相互実現」をもたらします *3。私たちは、一方的な慈善行為や援助目的でなく、公共性のある双方向のケア活動により、こころのバリアフリーを追求してきました。

これまで障害者は一方的に支えられ、与えられる立場になりがちでした。しかし、障害があっても誰かを支えることはできます。肢体不自由者が、視覚障害者の目の役割ができるように、自分とは違う種別の障害者を理解し、いたわりあうケア関係が築かれています。また、パソコンの技術を教え学び、HPやMLでの受発信の場を得て、コミュニケーション能力を磨きながら、障害を受容した人生の物語を共有することで、生きた知恵を学び、共感力を高め、自己成長しています。新しく障害者団体を立ち上げた人、地域のリーダーになった人、人前でパフォーマンスができるようになった人、「共生」理念の街の伝道者を自認する人がいます。人をケアし支えることにより主体的に生きる自分に自信をもち、他者の感謝の声や笑顔が生きる喜びに繋がり、充実した日々になりました。

②私たちは、情報開示に務め、現場での対面活動を重視してきました。「共生」のコンセプトの共有過程において、様々な困難に出合いましたが、真正面から取り組んでまいりました。2000年から性別・学歴・職歴・世代・宗教・イデオロギーの差異を超えて全国的につながることできた「ふれあいML」(参加者約80名)は、サイバー空間の理想郷で、感動的な逸話を生み出した24時間体制の試みでしたが、ルール無視による逸脱行為があり、数回の炎上を経験し、残念ながら、7年後に閉鎖したことを、記さなければなりません。文字だけのコミュニケーションの限界でした。

しかし、対面活動は、しがらみのある世の中だけれど、「自分を解放し、ありのままの自分で居られる場」を創る努力をしてきました。日常的にMLを活用して情報を共有し、自由に言いたいことを言いあいますが、地域に根ざしているので、自分の言行への責任や誠実さが求められ、ケア精神に基づく見えないルールが存在しているようです。

③私たちは、多様性・異質性を尊重してきました。共生の理念と実践を調和させ、どう普及していくかを課題にしてきました。実現は困難でも、理想に向かっていこうという意味を持ち続け、できることを工夫して取り組み、結果についてリフレクション(対話から得た気づきによる自省)をしながら、その時々メンバーの都合や特性に合わせた人員配置を検討し、フレキシブルに「チェンジ！」しながら、活性化してきました。

運営面では、障害の種別による利害関係の異なる人たちとも手を携え、人間として対等な関係の構築を模索しながら、対話を重視してきました。会員各自の主義信条には寛容ですが、会としては、特定の政党・宗教に、偏りません。会員は、運営委員会をオブザーブし、意見を言うことができます。お互いにケアの精神があれば、隠さずに発言する勇気をもって、対立しても安易に折り合わず、どのような相違点があるのか時間をかけて明らかにします。

議論の場で意見が対立したとしても、日常の場では挨拶を交わし、人間関係に影響を及ぼさないよう心掛けてきました。ITサロンのお茶タイム・意見交換会・ワークショップ(ワールド・カフェ方式)・親睦会・慰労会・ふれあいバスハイク・食事会など、様々な分かち合いの機会を通し、自分とは異なる他者の存在と「和して同ぜず」でありながら、同じ時代を同じ地域で暮らす縁ある者同士として、親密な関係を築いてきました。

今回実施したアンケート調査結果によると、当会の活動は、組織運営上諸処に改善の余地はあるものの、全体的には、10年間の長きにわたり、ITというツールや障害者理解を切り口として他者理解を深め、ケアしあうリアルな交流の場を、会員個々人の努力の積み重ねで形成してきたことが読み取れました。

会員の三分の二は、入会時に、知り合いはいませんでした。ところが癒され、ケアする・されるの相互関係による磁場のエネルギーで、障害の有無やサポートする・されるの役割に拘わらず、誰もがエンパワーした自分に気づいています。各自の長所を認めあう中で、会員の自発性や信頼感が増してきました。愛や徳というべき、対価の発生しない思いやりの無限の力により、互いに人としての価値を承認しあって、人間性が活性化されました。障害者の社会参加と自立がねらいでしたが、障害の有無に拘わらず、私自身も含め会員一人ひとりの社会教育・生涯学習バリアフリー・ボランティア養成講座のモデルでもありました。

協働事業のパートナーとしての青葉区社協や行政機関・企業に対しては、当事者・利用者サイドの現場感覚を正しく伝えながら、課題に共に対峙する中で、緊密な連携関係が成り立っています。これらの信頼のネットワークがソーシャル・キャピタル(社会関係資本)として、地域に蓄積されてきました。

ワーク・ライフ・バランスが問われている昨今、アンペイドワークとペイドワークをバランスよく取り入れると、精神的に豊かなライフスタイルの実現が可能となります。経済価値優先社会の中で、傷んだ魂の休養と修復・栄養補給の場として、多元的価値のボランティア世界が存在する意味を再確認し、「汗をかく」対面活動重視のボランティア活動の推奨に寄与したいものです。

今後は、グローカル公共哲学*4を軸に、ケアの精神をもって、障害者・外国人・高齢者・女性・こどもが社会の構成員として尊重される、障害者と健常者だけに限定されない広い意味での「共生配慮型多文化社会」の構築を目指し、地域でリアルな「バリアフリー・コミュニケーション」活動を勧めながら、公共性の質をさらに高めていきたいと希望しています。

これからも一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

青葉バリアフリーサポート21(ABS21)

代表 三竹 真知子

副代表 矢野 睦男

副代表 栗木 正壽

*1.「広く社会に利害や正義を有する性質」(広辞苑第五版)

*2.「公共世界における人間と社会の関わり方について、価値の複数性を承認しながら、その内容を議論したり、考えあつたりする学問」(山脇直司『社会とどうかかわるか ―公共哲学からのヒント』岩波書店、2008年、p.188。)

*3.今田高俊『自己組織性と社会』東京大学出版会、2005年、p.248。

*4.参考文献:山脇直司『グローカル公共哲学』東京大学出版会、2008年。グローカル公共哲学が理想とする規範的な「自己-他者-公共世界」理解は、自然・文化・歴史環境によって規定されながらも、それらを他者とのコミュニケーションによって変革していくような、また、各自が根ざす「現場性」と「地域性」の相互理解を重視しつつグローバルな諸問題と取り組んでいくような応答的・生成的・多次元公共世界である。①公共性の担い手が国家だけではなく、種々の中間団体や個人一人ひとりでもあること。②個人を犠牲にする滅私奉公ではなく、活私開公という考えに立脚しなければならない。

編集後記

福島京子：

考えるのが苦手で、ただ「人とのふれあい」を楽しんでいただけた私には、今回の編集は少々荷が重かったのが正直な気持ちです。でも「ABSって何やってるの？」聞かれるたびに答えに困っていたので、せめて具体的な活動紹介だけでも伝えたい・・・ひたすらレイアウトに励んだおかげで、多少はワードの使い方が進歩したかも・・・

星野 正：

今回、小生は、寄せられた原稿を元にWebページ化を引き受けました。しかし、ページ数の膨大さも驚きですが、何回もデータの修正が生じ、どれが本当の原稿なのか分からないものが多くパソコンに存在し、難儀をしました。また、完成したものが、これでよいのか、まだ、記事がない箇所があるのかなど、何時までも悩みが尽きません。本を作る人の苦労を知らされました。

三木清史：

私は、ほとんど企画段階にしか参加できませんでしたが、他のメンバーの皆様の地道な作業により、10年間の活動をこのようにして「見える化」できたことはとてもすばらしいと思います。作業のために集められた各種資料からは、多義にわたる充実した活動に感心するばかりで、ABS21が理想としているものに奥深さが感じられました。

三竹眞知子：

2009年4月の第一回運営委員会において、10周年記念誌制作が承認され、編集チームが編成されました。5月27日のML立ち上げから実働を開始し、投稿総数は365件、対面編集会議は7回(6/13、8/8、10/24、11/14、12/12、1/9、1/23)でした。お互いに叱咤激励しながら、役割分担し、連携して作業に取り組んでまいりました。「現場で走りながら考えてきた」10年間の活動を可視化することができたのは、スタッフのボランティア精神の賜物と、感謝のことばもございません。会員お一人おひとりのABS21に寄せるお気持ちと実践活動を記したこの記録をたよりに、振返りをしていきたいと思います。

青葉バリアフリーサポート21 (ABS21) 10年のあゆみ

2010年3月1日 発行

編集：青葉バリアフリーサポート21 (ABS21) 10周年記念誌編集チーム

編集責任者：星野 正

発行：青葉バリアフリーサポート21 (ABS21)

〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町1 1 6 9 - 2 2

青葉区福祉保健活動拠点「ふれあい青葉」 青葉区社会福祉協議会内

e-mail：abs21-office@yahoomgroups.jp

URL：http://www.abs21.com

発行責任者：三竹眞知子（代表）

印刷：NPO法人横浜市中途障害者地域活動センター 青葉の風

青葉バリアフリーサポート21 (ABS21)
10年のあゆみ

発行日: 2010年3月1日

発行人: 青葉バリアフリーサポート21

U R L : <http://www.abs21.com>

印 刷: 青葉の風